

672
58

672-58



1200501575260

上海事件の経過
海軍省編
其一

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

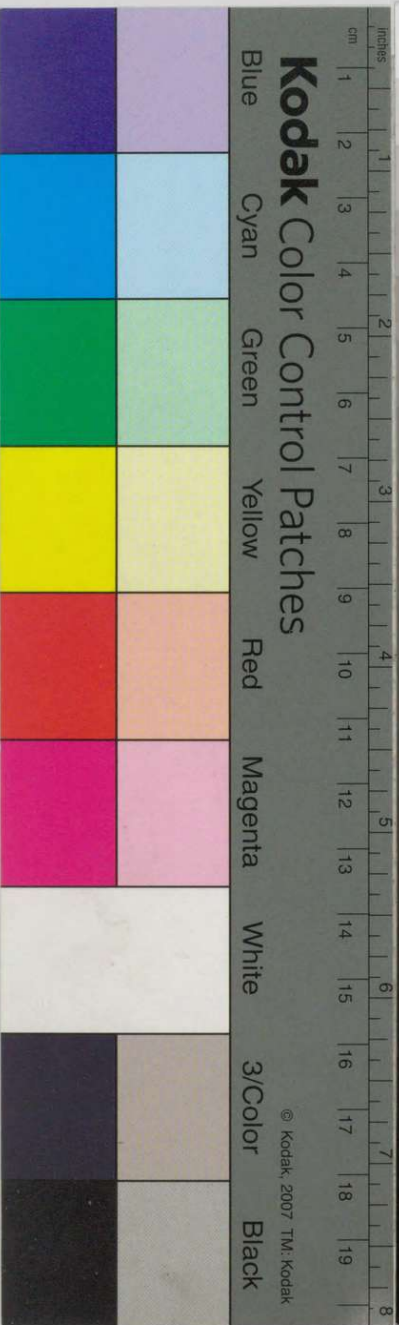


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak





672-58

上海事件の經過

(其二)

海軍省

海軍省
海軍事務普及部
昭和七年二月四日代贈寫

民國日報不敬記事掲載

●一月九日
總領事より上海市長吳鐵城に對し警告を與へ左記抗議を提出

(一) 民國日報の謝罪

(二) 民國日報記事取消

(三) 記者の處罰

右に對し市當局は言を左右に托し満足なる回答をなさず又民國日報は牽強附會なる辯明的記事を掲載し逆襲的態度を示す

●一月十四日
罷業職工同興紡(邦人經營)を襲撃し工部局日本人巡查二名負傷

●一月十七日

支那側抗日市民大會開催

●一月十八日

日蓮宗僧侶信徒等五名三友タウル工場工人等の暴行を受け三名重傷(一名は死亡)



一月十九日

午前總領事は市政府に對し事態の重大性を告げ追て解決條件を提示すべきを申入る

午後市政府より兪秘書長來館遺憾の意を表す

邦人の過激分子三友タウル工場襲撃の噂あり、陸戰隊指揮官は之が制止を命ずると共に附近租界を警戒す

一月二十日

午前三時青年同志會員約二十名三友工場を襲撃放火後(一部焼失)引揚の途中工部局(共同租界ノ行政權ト警察權ヲ有スル役所)巡捕と衝突二名を斬殺、同志會側亦一名死亡、二名重傷

午後居留民大會開催せられ自衛權の發動抗日團體の解散を決議し陳情の爲陸戰隊本部に赴く途中北四川路附近にて暴行負傷者若干を出す

市政府は兪秘書長を領事館に派し不取敢犯人の處罰を要求する處ありしが總領事は二十一日市長往訪の際本件發生を遺憾とすると共に日本人に罪あらば犯人は法に依りて處分すべき旨挨拶せり

同夜三友工場職工報復の爲東華紡績を襲撃すべしとの謠言あり陸戰隊急行警戒せしも無事經過

一月二十一日

總領事吳市長を往訪左記正式抗議を手交す市長は(三)項迄は應諾の意を示せるも(四)項は事重大なるを以て赴京打合せの上回答すべきを約す

- (一) 市長の陳謝
- (二) 加害者の逮捕處罰
- (三) 被害者に對する慰藉料治療費負擔
- (四) 抗日會等反日團體の即日解散

第一遣外艦隊司令官の聲明

第一遣外艦隊司令官は今回の事件が特に租界外に於て行はれたる抗日會員たる義勇軍の行爲なるに鑑み總領事抗議に關聯し左の聲明を發せり

「本職は上海市長に帝國總領事の提出せる抗日會員日本僧侶暴行事件の要求を容れ速に満足なる回答並に其の履行を要望す萬一之に反する場合に於ては帝國の權益擁護の爲適當と信する手段に出づる決心なり」

兵力増派

右の如く事態重大となりしを以て第一遣外艦隊司令官より電請の次第もあり取敢へず航空母艦能登呂の上海回航、吳に待機中の特別陸戰隊の増派を發令せられ且つ第一水雷戰隊に出動準備を豫告せらる。

大井及第十五驅逐隊は特別陸戰隊を載せ午後十一時上海に向け吳發
民國日報の陸戰隊侮辱事件

二十一日朝の漢字紙(主として民國日報毒筆を振ふ)は三友工場及北四川路事件を大々的に報道し右は陸戰隊の後押に依る日本浪人の陰謀と報ず右に關し陸戰隊は直接日報社に對し

- (一) 二十三日日報紙上に陳謝文を掲載すること
- (二) 主筆を陸戰隊本部に出頭せしめ陳謝せしむること
- (三) 將來此種の事件を發生せしめざること
- (四) 直接責任記者の處分

然るに日報は二十三日の紙上に於て極めて無責任なる取消をなしたるのみにて陸戰隊の要求を實行せず、茲に民國日報は先の不敬事件と併せて二重の問題を惹起せり

市内の狀況

三友工場襲撃及北四川路事件に依り市内物情騒然たるものあり支那側の日本電信局襲撃等對日報復暴動の謠言百出し滬西方面に於ては二十日夜來日本人は見付け次第殺せ等の「ピラ」を撒けるものあり又居留民側に於ても領事の處置を手緩しとし期

限付實行を要求すべしとの意見有力にして一部過激分子は二十三日を期し民衆大會を開き若し當局の對華態度煮え切らざる時は直接行動により中國側を脅懾すべしと敦囑く等意氣軒昂我要求の貫徹如何に依りては憂慮すべき事態を現出すべき形勢なり午後北四川路に於て我商業學生數名支那學生團に襲はれ僅かに身を以て逃る

對 外 人 關 係

漢字紙は在留邦人が工部局巡捕を殺傷し且つ租界内に於て暴行せる點を力説し責任を工部局に轉嫁し之を使喚して日本側に當らしめんとし居る感あり、總領事は二十一日の外字紙に本件發生の原因は過去半歳に亘る不法反日行動殊に最近の民國日報事件及日蓮宗僧侶毆打事件に基因するものなるが工部局巡捕に犠牲者を出すに至れるは甚だ遺憾なり取調の上犯人に對しては法に依り處分すると共に事態の悪化防止に全力を盡すべき旨聲明せしが我公正なる態度は外人間にも好感を以て迎へられたり

●一月二十二日

對 工 部 局 關 係

總領事は工部局巡捕殺傷事件に關し市參事會議長「マクノードン」を往訪し遺憾の意を表したるに同氏は今回の事件の性質を善く諒解し居り本件は何等問題とせざる如き氣配を示せり

其後工部局警察より青年同志會員中即死及重傷者三名を加害者として告發し他は敢て追及せず(二十三日右以外の一名をして自首せしめ目下取調中)

工部局側は此上問題を荒立てざる方針に認めらる

支 那 側 の 抗 議

上海市長より青年同志會の三友社襲撃事件に關し二十二日附公文を以て抗議を提出し左記を要求せり

- (一) 總領事の陳謝
- (二) 犯人の逮捕嚴罰
- (三) 被害者に對する充分なる賠償

(四) 今後の保障

右の内(一)(二)は既に我方より申入れ済なるも(三)(四)は容認の限にあらざるを以て之を一蹴せり

對 日 斷 交 論

滿洲獨立の模様依り益々煽られたる對日斷交論は南京政府部内に於ても陳友仁等の輕燥なる強硬論に制せられ一月二十日頃に於ては或は斷交宣言迄押し進むかと見られしが財界の有力なる反對もあり蔣、汪等の入京と共に漸次自重論に傾けり

支 那 側 の 言 動

二十一日の我抗議に對しては市當局は未だ回答をなさず却つて抗日會解散命令の如きは實行不可能にして斯る愛國運動を取締る理由なきを宣傳して誠意を示さざるのみならず、抗日會の經濟絶交徹底對日斷交宣布の揚言、市黨部の抗日動運斷乎續行の宣言、其の他工業聯合會北四川路商人聯合會の武装抗日決議等を以て大に氣勢を示すと共に我小學兒童に對する迫害俄に瀕發す(邦人學校は當分午後休業)

●一月二十三日

大井、第十五驅逐隊午後三時上海着夕刻特別陸戰隊の揚陸を終る

居 留 民 の 狀 況

第一遣外艦隊司令官の聲明及外務省の期限付通牒發出方針決定、軍艦の増派等報道せられたる爲一般邦人の感情大分緩和せられたる模様にて直接行動に出づることを避くべしとの自重論有力となり、第一遣外艦隊司令官及總領事の努力と相俟ちて懸念せられたる民衆大會も午後四時無事散會せしも意氣込は未だ却々強く支那側の氣勢と相對して不穩の空氣は隨所に低迷す尙總領事は居留民に對し抗日會の解散に就きては官邊に於て處理すべきを以て居留民は輕舉妄動せざる様警告せり

支 那 側 の 哀 訴

我方の決意牢固たるを見て支那側は前記民衆の虛勢に拘らず當局者は俄に狼狽し二十三日早朝有力者を以て外務海軍の各方面に抗日會解散期日の延長を哀訴し支那一流の泣き落し運動を開始せり

對工部局關係

工部局側に於ては我方に於て執るべきことあるべき強力措置が租界内に行はるることあるべきを憂慮し、「マクノーデン」より第一遣外艦隊司令官及總領事に對し質問ありしを以て總領事は若し何等かの措置を執る必要あらば豫め租界側と相談すべき旨回答したるに安堵し居れり

尙其の際抗日會本部の手入に關しては豫てより其の不法行爲を苦々しく思ひ居るも領事團の支持を得られざる爲其の儘になり居る關係もあり此の際日本が實力を以て之が手入を行ふことを歡迎する意嚮を漏せり

●一月二十四日

午後〇時三十分能登呂上海着

支那側の態度

南京政府と協議の上二十三日歸滬せる吳市長談として左の如き記事を二十四日の紙上に掲載せり

日本側の要求する排日取締及抗日團體の解散に關しては該團體が民衆の自發的愛國の赤誠に基き組織したるものなるに鑑み其の行動が合理的範圍にして秩序及安寧に妨無き限り政府は之を壓迫する能はず。云々

二十四日上海漢字紙は二十五日より開催の聯盟理事會に披露し各國代表の公平なる批判を求むる旨及外交次長甘介候は今回こそ聯盟規約第十五條及第十六條に則り共同制裁に依らざるを得ざらしむべく萬一不幸にして右提議成立せざる場合民國は當然抵抗的自衛準備を執るべしと語れる旨を報道す

右の如く支那側要人は内心極度に我強硬態度を怖れ之が緩和に狂奔すると共に對内的關係もあり外面に於ては飽く迄虚勢を張りつつあり

邦人紡績聯合會の工場閉鎖警告

紡績同業會は事態に依り閉鎖を敢行することに決し二十四日吳市長に對し工場閉鎖は今や已むを得ざるに至れるが之に依り生ずる責任は支那官憲に於て負ふべきものなりと警告せり

(註) 邦人紡績の狀況

工場數	九社、五七工場
錘數	一、一四八、一八四錘
投資額	一億七千萬圓
職工數	五、四、六〇〇人

二十四日午後七時佛租界に在る我公使官邸に放火を企てたるものあり種々の遺留品より抗日會員の所爲と認めらる

●一月二十五日

總領事の回答督促

午後村井總領事は吳市長を往訪僧侶毆打事件に關する我方申入れに對する回答を督促したるに市長は或期間の猶豫を求めたるが領事は之を拒絶し適當なる時機迄に満足なる回答を得ざる時は我方に於て必要と認むる自衛手段に出づるの已を得ざるべきを警告し可成速に我方申入れを受諾せんことを要望せり

支那人の暴行

二十五日正午頃「アメリカンエクスプレス」會社支配人(濠洲人)上海郊外龍華に於て支那歩哨の爲射殺せらる、一月十五日頃漢口上流に於て米船長共匪に拉致せらる、最近上海郊外に於て米婦人支那人數名の暴行を受く

右等の關係もある爲か米國も從來の引揚主義を廢し現地保護主義を執るに決せしやに傳へらる

三友工場襲撃事件にて死亡せし工部局支那巡捕の葬儀施行三友社工人も參列盛に反日氣勢を揚げしを以て參列せる工部局警察日本隊は中途脱退せり尙ほ三友社義勇軍五百は決死的對日暴行を計畫中との謠言あり邦人家屋に投石二件、小學兒童に對する暴行十一件

中國側の軍事行動

中國側は閩北租界境界線附近に土囊鐵條網を準備し高昌廟龍華方面にも土囊を見受く滬滬衛戍司令載戦は日本が正當なる理由なくして閩北或は南市に侵入する場合には極力抵抗の手段に出づることは彼の義務なる旨を宣言せり

在上海一帶の支那軍兵力は従來の第七十八師の七千六百に新に二十三日到着せる一旅（五千）を加へ一萬二千六百名にして吳淞及龍華其他の要地は戒嚴令を施行せり

壽府に於て國際聯盟理事會開催日支問題上議

●一月二十六日

第一遣外艦隊司令官より電請の次第もあり上海及南京方面警備の爲二十六日更に佐世保に待機中の特別陸戰隊（第一水雷戰隊に分乘）の増派及第一水雷戰隊の上海方面回航を發令第一水雷戰隊は特別陸戰隊を載せ午後八時佐世保を出發せり
民國日報二十六日午後二時工部局の手にて閉鎖せらる、上海邦人紡績會社は工場閉鎖の機を狙ひ居たる處愈々二十九日正午之を斷行することに決定す

●一月二十七日

第一水雷戰隊午後九時揚子江口着

上海各國駐屯軍指揮官工部局首腦者會議に於て我方の軍事行動開始と共に租界全周に鐵條網を張り各國軍は共同防備計畫草案に基き配備に就くこと、同文書院は英軍の受持とすること及伊國陸戰隊も揚陸することを決定せり

蘇州在留邦人婦女子六十六名上海に引揚げ來る、抗日會本部は既に租界外に移轉せり
市中諺言盛にして抗日義勇學生工人團等に於て密に武器を入手し北四川路方面に便衣隊を潜入せしめ邦人狙撃の機を窺ひつありと傳へらる、閩北方面にては土囊ある箇所に機銃を備へ對日反抗氣配露骨となる

軍隊約一團下關停車場に移動滬寧線にて輸送するもの如し

情報に依れば南京政府は全責任を中央に於て負ふべきを以て日本の要求全部無條件にて承認方を吳市長に督促せりと謂ふ
市政府秘書長午後總領事を來訪種々交渉せしも正式の回答をなさず誠意の認むべきものなし

●一月二十八日

第一水雷戰隊上海着特別陸戰隊は夕刻迄に揚陸を終り北部小學校に入る

午後三時十五分支那側は我要求全部を容るゝに至りしが總領事より吳市長に對し附帶條件として不慮の衝突を避くる爲日本受持區域附近の支那軍隊の撤退を要求し第一遣外艦隊に於ては形勢靜觀中なりし處市政府方面群集多數集合不穩の形勢あり、北四川路方面は避難民殺到し保安隊約二百は何處かへ逃亡して不安甚し

工部局は午後四時戒嚴令を布き午後五時各國軍隊は續々配備に就く

第一遣外艦隊司令官は午後八時左の聲明を發し支那側に對しては之を遺漏なく傳達することを促す手段を執れり

目下上海は租界内外を問はず人心動搖し形勢不穩にして刻々悪化し工部局は戒嚴令を布き各國軍も亦警戒を嚴にしつゝあり

帝國海軍は多數邦人の居住する閩北一帶の治安維持に關し不安と認むるを以て兵力を配備し之が治安に任ぜんとす

本職は閩北方面に配備せる支那軍隊の敵對施設を速かに撤退せんことを支那側に要望す

右と同時に第一遣外艦隊司令官は在留邦人に對しても自制を促す主旨の布告を發せり

午後九時三十分第一遣外艦隊司令官は上海在泊各艦の陸戰隊を揚陸特別陸戰隊に協力せしむ

第三戰隊（由良欠）十八日午後十一時半吳軍港發上海方面に向ふ

●一月二十九日

戰鬪狀況

工部局戒嚴令を布告したる際實施すべき列國駐屯軍協同防備計畫に基き日本側擔任區域たる北四川路東西兩側に對して二十
九日午前零時より「敵が攻撃に出でざる限り我より進んで攻撃行動を執るべからざる命令」の下に陸戰隊配備を開始せる處東

側地區は無事なりしも西側地區に於ては虬江路其他開北支那街に通ずる街路に顔を出すや否や支那側は突如射撃を開始せるを以て我軍も自衛上之に應戦交戦状態に入れり我軍は敵の正規軍を驅逐しつつ午前一時三十分迄に虬江路西部を除き概ね協定の警備線に到達逆襲突撃を反復する頑強なる敵と交戦しつつ能登呂飛行機の吊光弾及爆弾を以てする壯烈なる威嚇と相俟ちて午前五時虬江路ケッ路（赫司克而路？）交叉點の北五十米の四叉路を占領す

我軍は警備線に防禦陣地構築中北停車場の裝甲列車猛射せしを以て正午頃迄に停車場に近く線路二箇所を破壊し能登呂飛行機は朝來敵陣を爆撃其の連續勇敢なる攻撃に依り午後五時頃迄に裝甲列車は滬寧線を退却（北停車場西方一「マイル」にて爆弾命中）又敵兵の密集せし商務印書館初め開北數ヶ所に火災を起し警備線前方には敵正規兵の影を見ざるに至れり我軍の防禦陣地は午後五時迄に概ね完成せり本戦團に於ける参加陸戦隊員約二千七百名にして戦死者近藤少尉以下十一名、重傷者内山、藤田兩少尉本田、岸川兩特務少尉以下六十五名、輕傷者坂本、政間兩特務少尉以下三十三名を出せり

停 戰

英米總領事の斡旋もあり支那側の申出に依り兩軍共現位置に止まり午後八時より戰鬪行爲を中止することに協定成立す

陳紹寬（海軍部長）に對する通告

第一遣外艦隊司令官は二十八日深更在南京菅沼武官に對し左記通告を陳紹寬に傳ふべきを電報せり

「本職は聲明に基き近く上海附近に於て自衛行動開始の豫定なるも因より戰爭にあらざるを以て支那海軍とは從來通りの關係を希望す但し貴國軍艦より攻撃に出づるが如きことあらば己むを得ず敢然對抗すべきに附間違なき様され度」

便 衣 隊 の 活 動

二十八日夜來便衣隊の後方擾亂甚しく正午頃迄に抑留せるもの十數名に達し尙ほ二十九日警備線内に潜入せる疑あり

支那側の戦備
本朝より第六十二師全部移動を開始し下關停車場に集中しつつあり、上海方面に増援さるゝものと認めらるゝとの南京情報あり

あり

二十九日中支那飛行機四北方より南京に飛來、支那側は飛行機を南京に集中せんとするものゝ如しとの南京報あり

又上海總領事が開北方面の敵對施設撤去方申込に行きたる際、吳市長は支那軍は相當の決心にて對抗せんとするものゝ如しとの口吻を漏せり

兵 力 増 派

鳳翔、第二驅逐隊（澤風欠）特別陸戦隊一箇大隊を載せ午後二時横須賀發、龍田、第二十六驅逐隊特別陸戦隊一箇大隊を乗せ午後四時三十分佐世保發、加賀、澤風午後八時三十分佐世保發

午後一時南京居留民雲陽丸に引揚ぐ

支那代表より國際聯盟に對し同規約第十條及第十五條の手續を要請理事會開催

●一月三十日

支 那 側 の 停 戰 無 視

支那側は停戰の約に反し本朝五時三十分頃より約一時間半北停車場附近の裝甲列車を以て我滬寧線陣地其他を砲撃し野砲彈警備線内各所に落下す陸戦隊負傷二、

更に午前九時過寶興路、鈴木社宅、滬滬線陣地に對し射撃したるを以て之に應戦戦死一、負傷三を出す

便 衣 隊 の 活 動

昨夜來便衣隊虹口北四川路方面各所に蜂起し終夜銃聲絶えず陸戦隊は之が掃蕩に努む、戦死二を出す

第 三 戰 隊、 午 後 二 時 吳 淞 着

加賀、澤風、午後五時揚子江附近に到着

龍田、第二十六驅逐隊午後三時半上海着夕刻特別陸戦隊の揚陸を終る

一 般 狀 況

午後四川路貫の場所及陸戰隊東部附近の鐵道線路側に相當大なる火災あり、午後九時半に至るも尙鎮火せず夜に入り我警備區域一帶は陸戰隊の嚴重なる警戒裡に人通り絶ゆ

一部支那人の對日感情は昨今極度に悪化し、日本に對し徹底的打撃を加ふべしと高唱し、新聞は大々的に支那側の勝利を報じ或は租界を奪回すべしとの説を流布す

我領事館には屢々便衣隊來襲す

上海在住の主なる英米人は何れも日本が此際何等かの手段に依り成可く短期間に開北方面治安の回復を計らんことを希望し居り、現状永續せば租界内に避難せる多數支那人の爲其の治安を破壊さるゝことを極度に憂慮しあり

●一月三十一日

支那側攻撃を反覆す

謠言盛なりしも、便衣隊の爲陸戰隊員一名負傷せし外一般に平穩なりしに、支那側は午前一時二十分頃及午前四時四十分頃又々北停車場附近より不意に我陣地を攻撃し來り(野砲を有す)陸戰隊之に應戦す、英國義勇隊(北河南路及以西に配備)も支那側と交戦せり午前五時過敵は沈黙す、更に黎明より六三園附近に進出せる支那兵約百、繼續的に陸戰隊本部を射撃す午前十時三十分見張二名戦死す、午前八時及午前九時三十分頃の兩回、北停車場の敵野砲我陣地を砲撃す、寶興路陣地午前十時三十分頃又敵兵の射撃を受け我軍何れも陣地にて之に應戦せり、右の情況に鑑み午前九時三十分頃より約一時間加賀機十七機を以て偵察を行ふ

然るに現狀維持の誓約にも拘らず支那側は又も三十一日午後十一時頃より北四川路又虹口に便衣隊活動と同時に占有地區東西より敵軍攻撃し來り特に西方地區よりは一時間餘に亘り野砲々撃をなし虹口に彈着あり陸戰隊之に應戦し一日午前一時迄に之を撃退せり

又支那側は南京杭州方面より續々軍隊を集中しつゝあるを以て、第一遣外艦隊司令官は此際上海にある敵軍隊に對し徹底的

攻撃を決行すべく決心す

停戦協定決せず

支那側は停戦の約に反し屢々攻撃を反覆するを以て三十一日英總領事館に於て時局解決の爲、日、英、米三國總領事、第一遣外艦隊司令官及米兩國駐屯指揮官、吳市長、蔡軍長等會合、時局解決に關し協議せしむ、支那側は退却の要求に應ぜず、列國駐屯軍指揮官に於て決せる我占有區域を列國軍隊にて協同にて警備する案を基礎とし討議することゝなれるも第一遣外艦隊司令官は之を言下に拒絶せしを以て決せず、依然現下の休戦状態を繼續することゝして散會せり

漢口不穩

日本大敗等の新聞宣傳は、形勢急迫せるを以て居留民の不安もあり第二十四驅逐隊は、陸戰隊を揚陸鐵條網を張り、非常警戒配備に就けり

國民政府主要職員の北上

國民政府は南京治安維持の爲に何應欽を又外交方面擔任として羅文幹を残し蔣介石、汪兆銘を始め重要職員全部を洛陽に移す爲三十日夜北上せり

●二月一日

支那側の停戦無視

午前六時四十七分第二十六驅逐隊(栗、楡)下江中黃浦口吳淞三番浮標右岸高地より支那兵射撃せしを以て反撃沈黙せしめ其後危険なし

午前十時三十分寶興路滬滬線陣地西方に敵機關銃現はれ射撃陸戰隊之に應戦す

支那側は吳淞一帶及上海市江岸に壘壕を構築す、支那兵我が寶興路陣地及橫濱路陣地に對し午前十一時より午後五時迄の間機關銃小銃にて攻撃し來れるを以て之に應戦す

午後七時三十五分北停車場方面の敵野砲三發砲撃せり

昨夕本夕共領事館附近に便衣隊現はる

鳳翔及第二驅逐隊にて輸送の横須賀特別陸戰隊一ヶ大隊本日夕刻揚陸を終る

支那軍隊集中の状況

支那兵約四千、三十日午後四時頃徒歩上海方面に向ひ蘇州通過、同じく杭州方面より二箇列車分三十日中に上海着との報あり

南京三十日、蔡廷楷軍(第三師)を上海附近に集中南京及江岸の警備は第一師を以て擔當せしむる計畫にて河南にある警備軍の砲兵旅及第一師の一部一個團内外は二十八日開封發逐次南京着の旨、尙南京政府方面の情報によれば飛行機四個中隊(四〇基)を河南より南京に輸送し更に蘇州に前進せしめ日本軍の空襲に對抗せしむと

南京の状況

三十一日より邦人使用の支那人は憲兵巡查の恐喝の爲逃乏し始め一日に於ては殆んど全使用人の逃亡を見るに至り領事館の事務及糧食買出にも非常の困難を感じるに至り領事館、海、陸軍武官室關係者及外六名を除き二十五名午後二時半南陽丸にて上海に引揚げたり(残留總計三二名)

豫て獅子山砲臺より我軍艦を砲撃する等の噂ありしを以て南京駐在海軍武官は谷正林(憲兵司令)に對し注意を促しおきたる處一日午後十一時頃獅子山砲臺より三發の砲撃を認むると同時に日清ハルク警戒隊も正規軍の狙撃を受けたるを以て對馬及天龍は十一時十五分迄緩徐なる砲撃を加へて午前零時五十分警戒隊を收容せり

英米の派兵

英國は香港に在る巡洋艦「パーウィック」に陸兵八百及山砲隊を搭載一日午後三時發三日朝上海着豫定との新聞報あり、又倫敦發電に依れば英國政府は歩兵及砲兵各一大隊香港より上海に増遣の事に決定「セント」及「サツフォーク」註、何れも一

萬噸新式巡洋艦)近く上海着の豫定、及日支兩軍間に中立地帯設定に關し米國と協力して一切の手段を講ずべき旨在上海領事に訓令せる旨公表せり

一日午前九時米驅逐艦四隻上海に向け馬尼刺發

一日午後一時アジア艦隊旗艦「フリストン」は海兵四百を搭載驅逐艦三隻と共に馬尼刺を出港せりとの新聞報あり

一日夜半馬尼刺駐屯の陸兵一ヶ聯隊運送船「シヨームン」にて上海に向け出發の豫定なりと云ふ

上海事件の經過 (其二)

昭和七年二月十五日代勝寫

海軍省

○二月二日
關北方面の戦闘

午前十時頃より敵は青雲路廣場より横濱路虬江路の我陣地に對し小機銃を以て又北停車場附近よりは北四川路方面に對し迫撃砲を以て射撃す陸戰隊は之に反撃せるも租界の危険を考慮して北停車場方向には砲に依る反撃を行はず夜に入りて交戦止む午後六時十五分頃敵彈三發我總事館を越えて飛ぶ

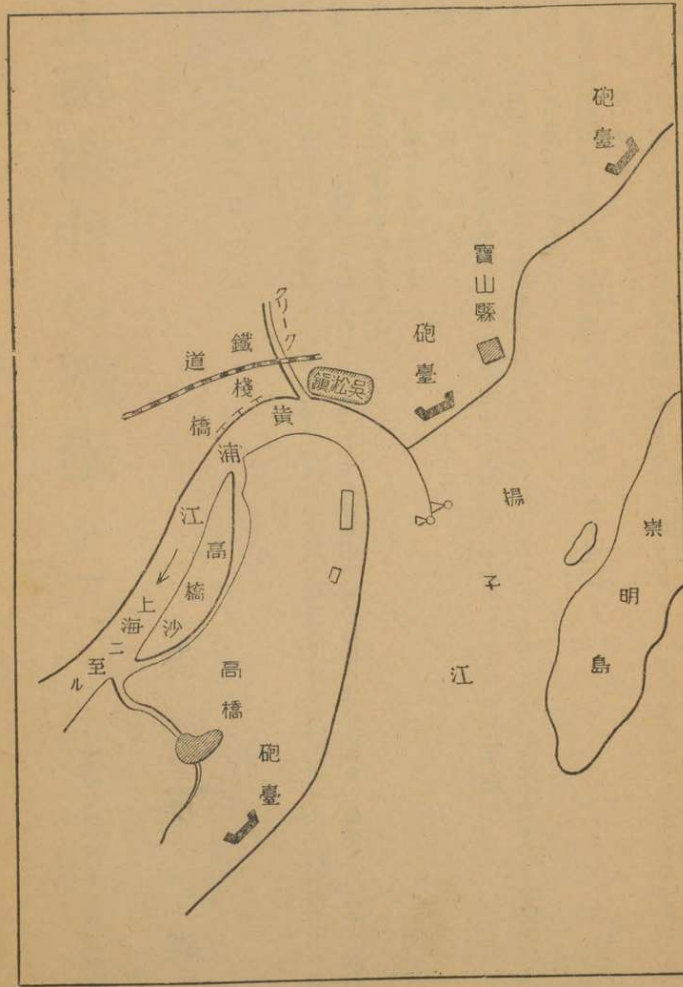
○二月三日
關北方面の戦闘

二日夜十時頃虬江路陣地及月廬家花園裏附近に一二敵の小部隊出現之を撃退したる外一般に平穩午前九時より正午迄關北の支那軍は野砲迫撃砲を以て盛に北四川路北帯を砲撃し我陸戰隊は午前十時より野砲にて之に應戦外に一部隊を以て新公園西方の敵を掃蕩す

午後二時飛行機は陸戰隊野砲と協力敵の迫撃砲陣地を破壊し敵兵舎を爆破せり
吳淞要塞との交戦

第二十六驅逐隊柿、楡、栗は戦死者の遺骸後送の爲黃浦江下江中吳淞「フオート」浮標を航過せんとするや午前十一時二十五分突如吳淞砲臺より砲撃を開始せしを以て同隊は直に反撃正午迄交戦す

(吳淞要塞略圖)



—(二)—

該砲臺中央の大砲、火薬庫を爆破し火災を起せり

本交戦中橋の經橋下に小銃彈一發命中の外損害なし次で吳淞砲臺は水路監視の爲附近江上に行動中の我巡洋艦隊に對し砲撃を開始せるを以て同戰隊司令官は此狂暴なる吳淞砲臺の存在は帝國の自衛上放置する能はざるのみならず上海市に對する國際通路の安全を保證する爲めにもその脅威を除くの要あるを以て之を攻撃するに決心し先づ第一着手として吳淞對岸の高橋砲臺の脅威を除く爲め驅逐隊及飛行機の協力を得高橋砲臺に砲撃爆撃を加へ午後四時三十分完全に之を粉碎し吳淞要塞に對しては敵の十五種砲を破壊し火薬庫兵舎を半壊し砲臺内に多數の命中彈を送りたるも敵の損害詳かならず砲臺内の敵兵は一時陰遁せるも尙砲臺内に存在する模様なり

海軍省聲明

吳淞要塞の攻撃に關し海軍省は「國際通路上に於ける斯の如き狂暴なる砲臺の存在は帝國の自衛上果又帝國の列國に對する責任上放置する能はざるを以て之を砲撃するに決せる」旨聲明せり

英米伊領事より陸戰隊の行動に關する抗議

三日帝國總領事を通じ英米伊三國領事より我方の擔任區域外に於ける我陸戰隊の行動に關し抗議ありしを以て一遣司令官は右は從來より駐屯し來れるものなるが列國側が其の撤退を希望するに於ては直に之を實行し差支なき旨聲明せり

◎二月四日

關北方面の戰鬪

一月三十一日以來忠實に停戰協定を守りつゝある我軍に對し支那軍は協定を無視し卅一日以來屢々攻撃を反覆するを以て自衛上我陸戰隊は之が掃蕩の己なきに至り午前七時頃より銃砲火力を以て敵陣地を制壓し午前十一時頃より出撃敵を撃退し午後二時頃迄に新公園西方の地區に進出せり

商務印書館附近の敵は頑強に抵抗せるを以て午後飛行機を以て爆撃せり數日來の戰鬪に依る敵の損害は頗る大にして第七十八師は全滅に近く之と交代して第六十師關北に來れりと云ふ

—(三)—

本日の戦闘に於て我軍損害

戦死八、重傷二〇、輕傷一四

吳淞要塞の攻撃

我巡洋艦及驅逐隊は午前十一時半頃より吳淞砲臺に對し再び砲撃を開始し又飛行機は午後一時十五分出動稍不良なる天候を冒して要塞の爆撃を執行す

吳淞砲臺は昨日來の攻撃により砲臺全部に亘り多大の損害を受けたるものと認む

上海吳淞間敵陣地との交戦

驅逐隊若干は上海吳淞間に於て敵小口徑砲、機關小銃の亂射を受け直に反撃午後四時半に至る間に於て飛行機と協力之を大破沈黙せしめたるも敵敗殘兵は尙多數左岸一帶の塹壕に據在す

此の戦闘に於ける我死傷

戦死一、重輕傷一三

英米佛の提案と之に對する帝國政府の回答

二月二日在本邦英國大使は英國外務大臣の訓令に基き左記を提案し又米國及佛國大使も之と前後して略同一内容の提案を送致せり

- (一) 左記條件に依り双方一切の強力行爲を中止すること
- (二) 是以上敵對行爲の爲にする何等の動員又は準備をなさざること
- (三) 日支双方の交戦者を上海の地域内に於ける一切の接觸地點より撤退すること
- (四) 交戦者の間を隔離すへき中立地帯を設くることに依り共同租界を保護することは是等地帯は中立國人に於て警備すへく之か取極は領事官憲に於て定むること
- (五) 上記諸條件が受諾せらるゝに於ては巴里條約及十二月九日の國際聯盟決議の精神に準據し豫め要求又は保留することなく且中立の監視者又は参加者の援助の下に兩國間に現存する總ての紛争を解決する爲め交渉を促進すること

右に對し帝國政府は二月四日英米佛各國大使に夫々左記要旨の回答を發せり

- (一) 支那軍の挑戦並に騷擾的行爲を即時且完全に停止せしむるを要す右にして確保せらるゝに於ては帝國軍に於ても戦行爲を中止す若し支那側(正規軍たるを便衣隊たるを問はず)にして挑戦若し騷擾的行爲ある場合帝國軍の取るべき行爲に就ては完全に其自由を留保す
- (二) 支那側從來の不信なる行爲並に現在の重大なる形勢に鑑み我方としては動員又は戦闘の準備をなさざること不可能なり
- (三) 日支双方交戦者の隔離及必要に應じ開北附近中立地帯の設置に關し領事及軍隊指揮官をして取極め交渉に當らしむるに異存なし
- (四) 所謂兩國間に現存する一切の紛争中には滿洲事件を含むものと解せらるゝ所同事件は上海事件とは全然別箇の問題なるのみならず滿洲事件に就ては客年十二月十日の理事會決議も存し居り且又同事件の解決に付第三國監視者又は參與者の援助を受諾し得ざるは帝國政府の既定方針なるを以て旁々本項は我方の同意し得ざる所なり

◎二月五日

開北方面の戦闘

昨日に引續き對抗中の敵掃蕩を期し我陸戦隊は午前零時四十分より野砲にて約一時間商務印書館北方地區の敵陣地を砲撃し續て機銃を以て掃射し黎明より漸次敵を撃退し午後零時四十五分には商務印書館を完全に占領せるも夜間の警戒を顧慮し虹口「クリーク」以南は午後四時迄に淞滬線陣地に復歸す

右に依り我陣地は淞滬線以北は虹口「クリーク」左岸迄進出虹口「クリーク」と淞滬線の交叉點以南は概ね淞滬線に沿ひ該線と寶山路との交叉點附近迄を扼することゝなれり

正午頃敵飛行機二基新公園附近に現はれ進出地區内に爆弾一を投下せしも損害なし敵機は我戦闘機に撃退せられしが内一基は上海西方郊外虹橋飛行場附近にて墜落搭乗者一は死亡一は重傷せりと云ふ

◎二月六日

閩北方面の戦闘

夜陰に乗じ我陣地に近接し來れる敵に對し我陸戰隊は早朝猛撃を加へて之を撃退せり夕刻迄野砲戦を行ふ我飛行機も之に協力し敵に多大の損害を與へたり

◎二月七日

閩北方面の戦闘

六日午後十一時四十分頃より約一時間に亘り閩北の敵野砲は共同租界(虹口)及北四川路方面を砲撃し我陸戰隊之に應戰野砲を以て敵を制壓す午前十一時頃飛行機之に協力す

此一兩日虹口一帶の人心稍や落着く

吳淞要塞との交戦

吳淞砲臺は連日の我砲撃爆撃に依り殆んど破壊せられたるも殘敵約二千八百は尙ほ兵營並黃浦江岸一帶の陣地に據り水路の脅威をなすあり横須賀鎮守府所屬の特別陸戰隊一ヶ大隊は驅逐艦掩護の下に敵砲臺下を強行通過正午頃吳淞「クリーク」より稍上流の鐵道棧橋より揚陸を完了す

之より先上海陸戰隊指揮官植松少將の率ゆる陸戰隊約百名及裝甲自動車若干は揚陸掩護の目的を以て上海方面より進出敵を驅逐しつゝ揚陸掩護陣地を占領揚陸部隊の戦闘加入と相俟ちて吳淞「クリーク」南岸に到着北岸の敵と川を挟んで對戦す

次で陸軍先遣部隊も逐次到着午後三時頃より夕刻迄に全部揚陸を了す

敵は我海軍掩護部隊の砲撃爆撃に依り相當の損害を受けたるも「クリーク」橋梁を破壊して頑強に我進出を阻止す

陸軍揚陸中は我陸戰隊全正面を擔當し海上よりの掩護射撃と共に敵を驅逐せしが陸軍部隊の集結終了後は鐵道線路を境界として「クリーク」江岸地區を陸戰隊にて其の西方地區左翼並に後方の警戒は陸軍之に任じて揚陸當夜の配備を了せり

當日朝來北風強く細雨雪を交へて夜に至る夜に入りて兵火所々に舉り我艦艇は徹宵威嚇照射をなす

閩軍出兵に關し帝國政府は左の聲明を發す

一、東洋の平和を確保し世界の平和的發展に貢獻するは帝國政府の一貫せる外交方針なり不幸にして近年隣邦における排外運動の暴威はその不統一、不安定なる政情と相俟つて列國共通の憂を醸すに至りたるが國土近接し利害最も錯綜せる帝國は列國中最大の犠牲的地位に立つに至れりしかして我方において世界の大勢及善隣の關係に鑑み努めて友好的態度に出づるや支那側においては却て乘ずべしとなし頻りにわが權益を蹂躪し殊に國民政府と殆ど一心同體なる黨部指導の下に機會ある毎にその惡辣深刻なる排日運動を擴大し在留帝國臣民に對し各種の暴行迫害を加ふるの實狀なり

二、上海事件はかゝる情勢の下に勃發せるものにしてこれより先青島、福州、廣東、厦門等起りたる幾多の不敬記事事件乃至暴行事件等とその軌を一にす即ちこれ等の事件を通じて看取し得べき事實は支那官民のわが國及び國民に對する侮辱的態度と在留邦人に對する暴行なるが上海事件はその最も顯著なるものにして民國日報社は去る一月九日わが皇室に對する不敬記事を掲げまた同月十八日わが僧侶等五名は何等の理由なくして支那暴民のため襲撃を受け内三名は重傷を負ひ一名は遂に死亡するに至れり、こゝにおいて過去長日月の間排日に苦み殊に最近その最も惡辣なる情勢に對し隱忍に隱忍を重ね來れるわが居留民の憤懣はその極に達し事態極めて重大化するに至れり

三、此情況において在上海帝國總領事は帝國政府の訓令に基き右暴行事件を局部的に解決し事態の擴大を極力防止すべき方針の下に一月廿一日上海市長に對し反日會の解散を初め四項の要求を提出せるが廿八日午後三時同市長のわが方に對する回答は右要求を容れたるものなりしを以て、我方としてはこれにより事態の緩和を期待すると同時に支那側約束の履行を監視するの地位に立つに至りたりしかるにこれより先、盛に上海附近に集中せられたる第十九路軍は支那内政上の關係よりして必ずしも國民政府の命令を奉ぜざるものゝ如く前記上海市長の我要求應諾に拘らず租界附近に於て戰備を整ふる等の行動ありたる一方便衣隊その他不逞分子の租界潛入もあり市政府附近の形勢また不穩となり流言蜚語甚だしく、この間閩北一帶の保安隊も逃亡したるため居留民をして極度の不安に陥らしめたり、共同租界當局は右不安狀態に顧み廿八日午後四時戒嚴令を發し列國軍は豫て協定せし受持區域の警備につくに至れるところ我陸戰隊に於てその受持區域たる閩北地

方の警備につかんとするや支那側は我軍に向て發砲し攻勢的態度に出でたるを以て我陸戰隊は止むなくこれが對抗手段を執りこゝに日支兩軍の衝突となり次で今日の事態を致せり

四、右により明なるが如く前記暴行事件と日支兩軍の衝突事件とは全然別個の問題にして衝突事件に至りては元來我方の意思に反するものなるを以て極力形勢の悪化を防止するに努めたる結果英米總領事の奔走もあり、廿九日日支兩軍間に一旦停戰協定の成立を見たる次第なる處翌卅日午前に至り支那側は約に反して再び發砲し更に卅一日午後の停戰會議に於て中立地帯に關する協定成立するまで停戰を約せるに拘らず再び攻撃を開始しその後引續き攻撃を止めざるのみならず増援軍の上海附近集中を繼續し我方に於て上海の國際都市たるの地位に顧み事態不擴大の方針の下に努めて隱忍の態度に出づるや支那側に於ては却つてこれを以て我軍の敗戦なるやに宣傳して益々攻撃的態度を逞うする状況なり

五、統制なき支那の現状に顧みまた過去に於る幾多の事例に照し上海附近に集中せる支那の大軍は無責任なる政治家等の煽動により何時如何なる暴舉に出づるやも測り難き一方今や我陸戰隊は十數倍の支那軍を控へ不眠不休の努力を續けをり我居留民は極度の不安に驅られつゝある状況なる處海軍兵力の陸上派遣には自ら一定の限度あるを以て此際陸軍兵力の派遣により支那軍の脅威を去り一日も速に上海の常態を回復し列國民の不安を除去するを緊要と認めこゝに所要陸兵を上海方面に派遣し以て從來の海軍力と協力せしめらるゝことゝなれる次第なり

六、要之今次帝國陸軍の上海方面派遣の目的は既往に於ける帝國の同方面に對する累次の海兵派遣と等しく多數の帝國臣民と巨億の財産保護の萬全を期し併せて租界防備に關する國際的義務を全うするに存するを以てその兵力は右目的達成のため必要なる限度に止め且その行動は列國共同の利益を確保するの方針に則るべく従つて支那側にして敵對行動を終止せざるかまたは右我軍の目的遂行上の行動に妨害を加ふるに於てはこれに對し必要の對抗手段を行使すべきも我方より進んで攻勢に出づるが如きことなきは勿論なり、將又我方に於て上海地方に對し何等政治的野心を有せざるは固より同地方に於ける列國の權益を侵害するが如き意圖なきことは既に聲明せる通りにして帝國政府の上海地方に對し要望する所は畢竟列國協調及び相互扶助の精神により關係各國と共に同地方の安寧と繁榮の増進を計り延て東洋の平和と福祉とに貢獻するに

存す

◎二月八日

開 北 方 面 の 戰 鬪

敵砲彈終日斷續的に邦人居住區域一帯に亘り落下せるも損害輕微午後九時三十分我陸戰隊陣地へ敵約百名襲來せしも直に之を撃退せり

吳 淞 方 面 の 戰 鬪

大なる變化なし

第三艦隊司令長官の聲明

「我第三艦隊は在支日本帝國臣民の安全と權益とを保護するの任務を有す本職は當市の性質に鑑み良く列國と協調を保持し事態の擴大を防止し今次事件を速に解決し以て右任務を達成せんことを期す

茲に新に命を奉じ當地來着に當り一言聲明す」

◎二月九日

開 北 方 面 の 戰 鬪

開北方面の敵に對し砲撃及爆撃を加へ多大の損害を加ふ北四川路虹口方面の市街に敵彈落下せしも被害大ならず

江灣競馬場方面より敵二百名二回に亘り來襲せしも新公園北方に於て之に砲撃を加へ潰走せしむ

我飛行機戰鬪に参加し北停車場西端寶山路及其の北方河岸の野砲陣地並に江灣方面敵密集部隊を爆撃す

吳 淞 方 面 の 戰 鬪

大なる變化なし

我警備區域内便衣隊の出沒未だ熄まず吳淞路靶子路附近に屢々銃聲を聞く
雜 件

日清汽船大吉丸船長高橋某小蒸汽にて龍華附近通航中支那正規兵らしきものに銃撃され死亡す

上海事件の經過

(其三)

昭和七年二月廿日代騰寫

海 軍 省

戰 況 ●二月十日

開北方面の敵に對しては砲撃爆撃を加へ虹口、北四川路方面に對する敵の緩徐なる砲撃を制壓せり
吳淞方面の敵に對しては海陸より砲撃を加へ其の制壓に努む
其他戰況に變化なし

蔣介石系軍隊の動き

上海附近に於て我と對戦中の十九路軍は元來廣東系軍隊なり上海方面形勢逼迫するや蔣は其の直系軍隊をして之に代らしめ
切迫せる形勢を緩和せんと企てたるも十九路軍は命に服せず遂に今回の事件を惹起したる關係もあり蔣派たる顧祝同軍は十九
路軍を監視の姿勢にある如く認められし處最近滬寧線に依り十九路軍に彈藥を補充したる形跡あり

鎮江國旗引卸し事件

十日午前十一時三十分頃支那兵數名巡警の制止を肯かず日清汽船「ハルク」に侵入「ハルク」に掲揚しある我國旗を引卸し
不穩の態度ありしも公安分局長急行之を退散せしめ我國旗は再び掲揚せらる

右に關し公安局長代理として分局長は直に在泊警備驅逐艦に來艦陳謝すると共に公安局長、旅長等は

(イ) 犯行者の處罰

(ロ) 所屬隊長の正式陳謝
(ハ) 今後の保障

の諸項を誠意を以て實行すべき旨誓約せり

廣東空軍の北上

廣東空軍に屬する飛行機六(六人乗二、一人乗四)は十日午前八時發長沙を経て十一日南京着の豫定なりと
九日夜廣東海軍俱樂部に於て盛大なる送別會行はれ十日出發の際は飛行機數甚激勵傳單を散布しつゝ見送れりと十一日午後
三時三十分長沙上空を通過せる飛行機六基ありたるが恐らくは右廣東飛行機ならん

●二月十一日

戰

況

十一日午後四時吳淞附近下江中の郵船長崎丸に對し機銃を發射せしを以て同處警備中の我艦は直に反撃之を沈黙せしむ敵は
吳淞鎮以北の江岸一帯に亘り新に塹壕を構築し多數の兵を掩蓋下に潜伏せしめあり

十一日朝我海軍浮標繫留中の軍艦に向け上海南市河岸より不法射撃をなせるに對し(後甲板に小銃彈命中す)總領事より市
政府に對し嚴重抗議し今後の取締を促せり

雜

件

最近兩三日共同租界に於て外人の便衣隊に狙撃せられたるもの數名に達したる模様にて英國人間に最も衝動を與へ十一日午
後在留民有志會を開き對策を協議せりと謂ふ

休

戰 提 議

十一日朝上海義勇軍參謀(英陸軍中佐)第三艦隊長官を來訪「閩北方面の日支兩軍陣地間に居住する各國籍婦女子を避難せ
しむる爲明十二日午前八時より正午迄此方面に限り戰闘を中止す」の件を支那側の同意を得たる趣を以て提議せるを以て我方
も之を承認す

●二月十二日

戰

況

昨夜來吳淞方面の敵は稍攻勢に轉じたるを以て我艦は黎明より敵の修復せる塹壕並敵密集部隊に對し斷續的に砲撃を加へ午
後七時頃敵兵の屯所二ヶ所に大火災を生ぜしむ

十二日午後我飛行機の偵察に依れば眞茹、南翔、新橋、龍華附近に敵兵力の増加せるを認む

支那軍の停戰無視

午前八時より正午迄の停戰期間中支那軍は停戰の約を無視して斷續的に射撃を行ひ尙ほ避難民雜沓の混雜に乗じ多數の便衣
隊を潜入せしめたりと認めし我軍は停戰期間なるを以て全然發砲せず英米領事より更に六時間停戰期間延期の申出ありしも
右の情況に鑑み支那側の誠意を期待し得ざるを以て之を拒絶す但し避難救出に對し一日四時間以内の休戦には應ずべき旨回答
せり

雜

件

(一) 上海に於て我軍に對抗中なる十九路軍就中七十八師が頑強なる敵對行爲を續けつゝある裏面の消息として傳へらるゝ
所次の如し

(イ) 北四川路方面には廣東人多く居住す日本軍は廣東人とさへ見れば全部之を慘殺しつゝありと宣傳して七十八師を憤
慨發奮せしめつゝあること

(ロ) 元來極端なる排他心を有する廣東人は從て又支那人中に在りても優越感を抱き居り面目上敗退し得ざる立場にある
こと

(ハ) 若し敗戦せば完全に其の地盤を失はざるべからず地盤を失へば潰滅の憂目を見るべきこと

(ニ) 本軍中に共產系分子多分に潜在し内部より之を操縦し居る形跡充分なり

(ホ) 反南京政府の廣東系政客等が蔣介石、汪衛精の立場を困難ならしむる爲極力抗日を使喚しあること

(二) 既報英國居留民有志會(主なる者十二三名出席)は十一日深更迄會議したる結果本國政府宛強硬對支意見を申出せり

と

戦況

●二月十三日

昨十二日夜二回敵襲ありしも直に撃退潰走せしむ

開北の敵は極力陣地の構築を急ぎ又軍隊の交代を行ひつゝあるが如し
飛行機、陸戦隊協力開北方面敵陣地の爆撃を行ふ

吳淞方面大なる變化なし

南京政府に對する警告

既報廣東空軍所屬飛行機六基は近日南京着の管の處我軍は之に對し嚴重警戒中なるが彼等が南京着後直に同地に於て爆撃を加ふるは易々たる事なるも事態擴大の虞あるを以て南京政府に對し左の警告を與へたり

「廣東飛行機南京着の報あり之が南京を基地として行動する場合には戰術的見地より格納庫爆破の要あり又下關の日本軍艦を爆撃する場合には軍艦より南京砲撃をなす要あり何れの場合にありても南京を烏有に歸することゝなるべし」

●二月十四日

戦況

開北方面の敵は次第に防禦を増設し數日來殆んど定例的に晝夜間數回猛烈に射撃を行ひ時々小部隊の逆襲を爲すも毎時我適切なる銃砲火に依り之を撃退沈黙せしめ敵をして一步も前進せしめず士氣極めて旺盛なり只開北方面は陸軍の來着迄現陣地を固守するを立前とし進撃を強行せず我飛行機は常に敵陣を蒙りつゝ勇敢に偵察爆撃を敢行し多大の効東を挙げ居りしが地形の關係上租界上空の飛行を避け難く而して租界上空の飛行は在留外人より其中止を懇請せる關係もありて十四日以後一先づ開北の爆撃を中止することゝせり我警備線内便衣隊再び出沒活動を開始せるあり極力之が掃蕩に努む

吳淞方面に於ては我軍艦、驅逐艦は飛行機と協力し砲撃敵を制壓し敵機銃陣地、狙撃兵屯所を破壊し吳淞「クリーク」以北の敵に大損害を與へたり
陸上作戰指揮を陸軍指揮官に引渡す

十四日派遣陸軍の大部上陸集結せるにより陸上の作戰指揮は之を陸軍指揮官に委ね特別陸戦隊は陸軍指揮官の指揮を以て作戰に従事することゝせり。但し租界内の警備は依然我海軍之に當る

支那飛行機の南京著

支那飛行機四機は十一日、三機は十四日南京に着す。外三機中一機は上海方面に飛行後南京に到着す

支那側の水先人乗船阻止運動

支那側は總稅務司、港務長(共に英人)を通して下揚子江水先協會を壓迫し我艦船に水先人の乗船を阻止せんとする運動を始む

蔣介石南京著

一月三十日首都を洛陽に移すと稱して南京發北上せる蔣介石は十四日午後飛行機にて南京に到着せり

●二月十五日

戦況

(一) 開北方面

昨夜例に依りて約二時間に亘り我軍と砲火を交へたる開北方面の敵は午前十時頃より俄に活動を開始し陸戦隊本部附近に敵彈雨下爲に死傷四名を生ず

我軍は直に應戰約二時間後之を沈黙せしむ

午後七時三十分同方面の敵再び銃砲火を開けるを以て直に應戰約一時間にして止む

(二) 吳淞方面

我艦艇は飛行機と協力して早朝より敵陣地を猛撃し我陸軍運送船の掩護に任ず陸軍輸送船隊は敵の一彈をも蒙ることなく午後一時半上海に到着せり

吳淞要塞に潜在せし敵兵の内約千數百名は我猛撃に堪えずして午前八時頃より自動車「トラック」等に依り陸巷鎮及楊家宅方面に向ひ退却を開始せるを以て之に砲爆撃を加へ多大の損害を與へたり

吳淞鎮方面には尙多數の敵殘存するを認む

本日の戦闘中我飛行機は勇敢に行動し吳淞上空に於て敵砲彈を受けて負傷せるあり又數發の小銃彈を受けたるもの數基に及べるも何れも無事歸着せり

廣東飛行機長沙發

既報せる廣東飛行機は十二日長沙に來著十五日出所不明の一基を加へ計七基長沙發東方に向へり

雜件

蔣介石は十五日午後飛行機にて南京發北上す

◎二月十六日

戰況

閩北及江灣方面の敵は益々防禦を堅くすると共に軍隊を集中しつゝあり午前十一時三十分敵陣地内にて移動中の大部隊を認め直に砲撃潰走せしむ

午後六時江灣方面の敵又々砲撃開始我軍之に應じ直に沈黙せしむ

虹口一帶は比較的小康を得晝間邦人商店の開店するものあり、然れども北四川路狄思威路方面には尙便衣隊出沒して危險去らず

支那飛行機の動靜

十五日長沙を出發せる支那飛行機（廣東機と認む）六基南京着

雜件

駐支米國公使ジョンソン氏は十六日午前十時三十分より約一時間第三艦隊副官の案内にて我戰線を視察せり

◎二月十七日

戰況

昨夜及今朝に互り敵の砲撃あり拂曉敵迫撃砲彈約百發陸戰隊本部及北部小學校附近に落下し附近家屋に小損害あり我軍直に反撃敵陣地に多大の損害を與ふ

閩北方面晝間砲撃を聞かず前線平穩

虹口方面の治安維持に關し工部局領事館警察と協力し著々實功を挙げつゝあり

雜件

英國艦隊司令長官の抗議

十六日夜支那砲彈の爲郵船碼頭附近にて糧食積込監視中の英國軍艦「カンバーランド」(新式一萬噸巡)乗組水兵一名重傷後死亡一名負傷支那苦力數名死傷せるに對し英國艦隊長官は日支兩國に抗議を申込みたるを以て第三艦隊長官は「不幸なる出來事に對し深甚遺憾の意を表す」と挨拶し更に艦隊軍醫長をして負傷者を見舞はしめたり

米國艦隊司令長官の警告

我軍と對抗中の支那軍の一部は米國軍警備區域を背にして攻撃し來たれるものあり之に對し我軍は深甚の注意を以て米警備區域内に着弾せざる様應戰せるも時に不規彈の米國防備線内に落下することありしと見え十四日以來約十發の我彈丸同區域内に落下せりとて本日本國艦隊長官は警告し來れり

(終)

上海事件の經過

(其ノ四)

海軍省

昭和七年二月廿六日代騰寫
海軍省
並日及委員會

●二月十八日

戦況

午前六時半戦線北端なる四明公所にて奇襲あり直に撃退午後七時頃南北の敵砲撃を開始せるを以て直に反撃せる外晝間は平穩に經過す

支那軍撤退要求

田代參謀長は十八日午前九時中日聯誼社に於て蔡軍范其務參謀長と會見支那軍の撤退を勸告する處ありしが十八日夜に至る迄何等の回答なかりしを以て午後九時村井總領事より吳市長宛に又師團長より蔡軍長宛夫々公文を以て支那軍の撤退を要求せり

右公文撤退區域に關する部分を摘記すれば左の如し

「中國軍は二月二十日午前七時迄に第一線の撤退を完了し二月二十日午後五時迄に黃浦江左岸共同租界西北端曹家渡鎮周家橋鎮及浦淞鎮を連ぬる線(註、共同租界西端より概ね蘇州河に沿ふて西方の線)以北租界の北部境界線以北並に黃浦江岸爛泥渡及張家樓鎮を連ぬる線以北にして租界の境界線より二〇軒の地域(獅子林砲臺を含む)の外に撤退を完了し右地域内に於て砲臺其の他の軍事施設を撤去し並に新に設けざること」

雜件

—(二)—

(一) 南京派軍隊の動靜

顧祝同軍の戦線加入傳へらるゝ折柄第八十八第八十九師は上海方面に移動せるは事實なり

(二) 馮玉祥の太刀隊

馮部下の太刀隊は吳淞にて奮戦せりと支那側情報あり眞偽不明なるも或は該部隊も戦線に加入しあらざるか

(三) 水先問題

本邦艦船に對する水先乗船阻止に關しては支那側の猛運動に拘らず領事團は不法行爲として拒否しつゝあるも外人水先人は支那側より種々の脅迫を受け居る模様なるを以て實際問題として永く彼等を利用し得るや否やは疑問なり

(四) 三井洋行の爆彈事件

十八日午前八時頃北四川路三井洋行の入口にて爆彈爆發し通行中の支那人一重傷印度人一輕傷せり爆彈は時限装置にして強力且精巧なり目下破片を基として工部局にて内情調査中

◎二月十九日

戦況

十八日午後七時より十一時迄及十九日未明に敵の砲撃あり我軍直に反撃し閩北北部の敵に大なる損害を與へしも我陸戦隊に輕傷六名を出せり此敵彈は盛に租界内外に落下し「ブロードウェイ」方面にて外人一、虬江路方面にて邦人三負傷せり

吳上海市長より村井總領事宛回答要旨

十九日午後七時上海市長吳鐵城より我總領事宛回答あり其要旨左の如し

「上海方面の事態は日本軍の醸成せるものにして日本に於て一切の責任を負ふべきものなること累次申入れの通なり又今般總領事申越の各項は當地中國軍隊に傳達致し難し右は何れも日支兩國關係に影響する問題にして兩國外交代表者間に於て處理すべきものなるに付既に中央政府に傳達し置きたれば外交部より日本公使に何分の回答あるべし」

唯本市長は日本軍が引續き挑發し來り有ゆる破壊止まず民衆の憤慨日に甚しき今日の情勢に於て所謂抗日運動の消滅の如きは望み難く其の責任亦日本に在ることを聲明す

蔡軍長より我師團長宛回答要旨

「十九路軍は國家の軍隊なれば其の行動は國民政府の指揮を俟つものなるに付凡て南京政府と交渉あり度」

◎二月廿日

師團長の聲明

二十日午前七時に於ける支那軍第一線は各方面共依然變化なく期限に至るも國民政府よりは何等の回答なく師團は午前七時三十分を期し行動を開始す

行動開始に先立ち師團長は右の聲明を發せり

「本職は最近の狀勢に鑑み二月十八日午後九時第十九路軍に對し通告を發し事態を收拾すべき最小限度の要求をなせり然るに昨十九日夜第十九路軍々長より本職宛右通告に對する一切の回答は直接國民政府より帝國公使に對し發送せらるべき旨通知ありたるも本朝に至る迄國民政府よりは直接間接遂に何等の回答に接せず一方支那軍第一線は各方面共撤退せず其の敵對行爲は依然として繼續せられ今や事態を平和的に解決せんとする本職の希望は既に水泡に歸し軍は最後の手段に訴へ要求を貫徹するの已むなきに至れり然れ共軍は本來の目的に鑑み努めて軍事行動の範圍を縮少し以て事態の擴大を避け速に租界の危急を救ひ在留民保護の實を全くせんことを期す」

戦況

(一) 陸軍方面

江灣鎮の東端南北の線に堅固なる陣地に占據する二、三千の敵を驅逐し夕刻迄に西灣より江灣鎮中央閩北を連ぬる南北線迄進出す

海軍飛行機は陸軍に協力偵察爆撃に努め江灣鎮攻撃の際には有力なる敵野砲陣地を爆撃粉碎し陸軍の進出を容易ならしめたり

—(三)—

(二) 吳淞方面

吳淞方面の敵を攻撃制壓の任に當りし我水雷戦隊は午前八時三十分より緩徐なる砲撃を以て吳淞「クリーク」北方の敵を制壓中午前十時過數十發の敵野砲彈我附近に落下し内三彈は我艦に命中爲に戦死一重傷三を出したるも船體には大なる損害なし我艦船は敢然吳淞「クリーク」に近接し敵野砲陣地を猛射沈黙せしむ

午後七時迫撃砲機銃を有する敵約五〇〇「クリーク」北岸より我陸軍陣地を攻撃し其一部は「クリーク」を渡りたりとの報あり水雷戦隊は夜暗を冒し水路に進入攻撃を加へ午後十一時過之を撃退せり

右戦闘中高橋區(黃浦江を隔てたる吳淞の對岸)より我驅逐艦に對し機銃射撃をなす部隊を發見直に應戦沈黙せしむ

(三) 獅子林、劉河新鎮方面

我巡洋艦戦隊は驅逐艦數隻と共に陸軍に策應する爲午後一時三十分吳淞より揚子江本流に溯江獅子林及劉河新鎮方面に行動せんとせし際獅子林砲臺(吳淞要塞に屬する一砲臺にして二月三日以來我軍の攻撃中なる南石塘砲臺の北西約五杆に在り大口徑砲以下十數門の砲を裝備す)我に對し砲撃せんとするを認め機を失せず之を砲撃し裝填操作中の敵大口徑砲以下數門の砲及觀測所一ヶ所を破壊せる後劉河新鎮沖に到りて陸軍に策應せり

(四) 關北方面

陸戦隊は關北の我守備線を固守し敵の猛烈なる砲撃を蒙り約二、三十名の死傷者を出したるも有効なる砲撃を此敵に加へ遂に商務印書館並に虬江路方面より退却沈黙せしめたり

雜件

虹口、楊樹浦方面を砲撃すべき旨昨廿日夕第十九路軍司令部より發表ありたりとて英米國は同方面居住の自國人に引揚げ命令を發したる爲本日虹口、楊樹浦方面附近支那人の中部租界及南市に引揚ぐるもの夥し

支那軍はダムダム彈を使用しつゝあること確實にして捕獲品中に多數のダムダム彈あり、又我負傷者の傷痕も之を明證す

●二月廿一日

戰況

(一) 陸軍方面

師團は漸次戦線を進め江灣鎮の殘敵を掃蕩し二十一日夕西港(江灣鎮の北四杆半)及江灣鎮西端を通ずる線を占據し爾後の攻撃準備中

飛行隊は吳淞「クリーク」上流、江灣鎮西方野砲陣地並大場鎮の敵陣地に對し爆撃を行ひ又蘇州真茹方面を偵察す

(二) 吳淞方面

昨日來の我猛烈なる砲爆撃に依り吳淞鎮市街は大半焼失せり本日も引續き我海軍飛行機は進撃し敵を制壓陸戦に協力せり

(三) 獅子林劉河新鎮方面

我巡洋艦戦隊及驅逐艦數隻は前日に引續き陸戦に策應行動せるが午後獅子林砲臺の發砲準備中なるを認め砲撃を加ふるや彼亦直に應戦せるも我砲火に依りて沈黙す敵に若干の命中彈を認め得たるも濛氣の爲成果不明我方に損害なし

(四) 關北方面

關北方面の敵は依然陣地を固守しつゝあるも活氣なし我「タンク」隊は強行偵察に依り又野砲隊は適確なる砲撃に依り敵を制壓せり

午後六時三十分より敵は四ヶ所の陣地より砲撃を開始せるを以て直に之に應戦三時間にして沈黙せしむ我戦死二負傷八右敵彈に依り北四川路北小學校向ひ側に火災起り工部局消防隊出動消火に従事中隊員英支人各一名敵彈の爲負傷せり敵の損害に就て

信すべき情報に依れば今日迄の支那側人員の損害數は

死者(實際埋葬)

二、五〇〇

負傷入院(南市等の病院收容數)

約二、五〇〇

なりと

●二月廿二日

戰況

(一) 陸軍方面
 陸軍右翼部隊は午前六時四十分廟行鎮を奪取す其他の方面には大なる變化なし

(二) 吳淞方面
 前日に引續き我水雷戰隊は飛行機と協力吳淞敵陣地、密集部隊を偵察砲爆撃を行ふ
 夕刻敵の大部隊吳淞「クリーク」上流を南下せりとの情報を得て一驅逐隊は濃霧を冒して進出敵陣地を砲撃して枝隊の掩護並に警戒に努めたり

(三) 獅子林劉河新鎮方面

我巡洋艦戰隊及驅逐艦は引續き獅子林劉河新鎮方面を游弋陸軍に策應せり此行動中獅子林砲臺は屢々砲撃姿勢を執れるを以て午後之に對し砲撃を行ふ、敵は新に裝備せるらしき野砲及備砲三門を發砲せるが我に損害なし

(四) 閘北方面

午前十時半頃より敵砲撃を開始せるを以て我直に砲撃午後飛行機も協力爆撃を行ひ約三時間にして之を沈黙せしむ
 午後六時三十分より夜半正子頃に至る迄近來稀なる激戦あり敵は約二ヶ小隊を以て我寶興路陣地に逆襲し來りしも我軍は巧に之を邀撃して多大の損害を與へ潰走せしめたり此逆襲の外敵の砲撃は猛烈を極め砲彈の租界内に落下するもの多く殊に燒夷彈を使用せるもの、如く北部小學校附近の北四川路筋の四ヶ所に火災を起せり

(五) 其の他の方面

本日午後小谷海軍大尉の指揮する攻撃機隊は戦闘機隊と共に蘇州偵察中蘇州飛行場より離陸せる敵「ボーイング」戦闘機一基に會し之と交戦二分の後敵機を射墜せり本戦闘に於て小谷大尉は偵察席に在りて勇敢に奮戦中頭部に重傷を負ひ遂に壯烈なる戦死を遂げたり

我飛行機には損害なし
 上海浦東側にも若干の支那正規兵在り時々我軍艦に向け射撃を行ふことあり嚴重監視中なるも目下の處無事、日華紡以外の各工場は平常通就業しあり

●二月廿三日

戰況

(一) 陸軍方面
 大なる變化なし

(二) 閘北方面
 二十三日拂曉閘北方面の敵砲撃を開始せるも我適切なる反撃に依り約四時間にして沈黙せしむ
 爾後敵は沈黙を續け二十三日夜は對時の儘平穩に經過す
 我戦死四、負傷四

(三) 其他の方面
 我飛行機は蘇州並に虹橋飛行場の格納庫其の他の建築物を徹底的に爆破し更に敵野砲陣地、橋梁を爆撃し又敵の大部隊の東行するを發見爆撃して多大の損害を與へたり

陸軍増兵決定
 第十九路軍の外蔣介石直系軍隊の上海戦線に参加しある事實に鑑み速に租界の不安除去の爲陸軍の増兵決定せらる

支那軍政部洛陽移轉
 支那國民政府は曩に「自由に主權を行使し暴力の脅迫を受けざらん爲」と稱して首都を洛陽に移すに決し軍政部、外交部の擔任者を殘し蔣介石、汪兆銘等重要職員は一月三十日南京發北上せしが今回又軍政部並各軍の南京辦事所を洛陽に移轉する旨を新聞に發表せり

十二國理事要請の「アツピール」に對する外務大臣回答

二月十六日國際聯盟十二國理事に依り左記の要請を我政府に對し提出せり

理事會議長は一月二十九日兩當事國に對し其の同僚の名に於て爲したる要請中「國際關係の維持は獨り相互の協力及尊重に依りてのみ保障せられ得べく苟くも恒久的性質を有する解決は決して軍事的にせよ又假令經濟的にもせよ力の使用によりては獲得し得べからざるものにして現在の情勢が繼續すればする程兩國民間の不解解は擴大し其の結果は紛争の解決を一層困難ならしめ又重大なる損害を興ふるところ單に直接關係ある兩當事國に對してのみ止らざるべき」旨述べたり

今日日支兩國理事を除く各國理事は日本國政府に對し現下の紛争に於て其の聯盟國たり且常任理事國たるの名が日本に課する特殊の責任と節制の義務とを同政府に於て認めらるゝ様緊急なる要請を爲すの義務あり

極東に於て過去數ヶ月間に發展せる事態は兩當事國承諾の下に任命せられたる調査委員會に依り残る所なく研究せらるべし然るに同委員會の組織後上海及同地方に於て輿論の動搖を増したる諸事件發生し今猶ほ發生しつゝあり右等事件は多數國居留民の生命及利益を危殆ならしめ且つ世界が其の通過しつゝある危機に際し遭遇する特別の困難を更に大ならしめたるものなるが右等事件は軍縮會議に對し新なる重大障害を生ずるの虞あり、十二國理事は日本が主張せる苦情を決して忘却せず十二國理事は國際社會の一員としての其の義務及責務を常に細心に遵守し來れる原聯盟國の當然有すべき一切の信頼を過去數ヶ月間日本に對し與へたり然れども十二國理事は日本が聯盟規約に約定せられたる平和的解決方法に無留保に服することを可能なりと思考せられざりしことを遺憾とせざるを得ず十二國理事は國際紛争の解決は決して平和的手段以外に依り求めらるべからざる旨の巴里條約の嚴肅なる約束に關し日本に對し今一應注意を喚起す十二國理事は支那が其の領土内に展開しある鬭争の當初より對日紛争を聯盟に提出し且つ平和的解決を目的とする聯盟側諸提案を受諾すべき旨約せることを認めざるべからず

十二國理事は聯盟規約第十條の條文に依れば聯盟國は聯盟各國の領土保全及現在の政治的獨立を尊重し且之を維持すべき旨約し居ることを想起せんと欲す十二國理事は友誼上より右規定に關し注意を喚起するの權利あり十二國理事の意見に依れば右規定の結果規約第十九條を無視して行はれたる聯盟國領土の保全侵害及其政治的獨立の毀損は決して聯盟國に依り有効且實効

的と認められ得ず

日本は世界輿論に對し其の對支關係に於て其態度の正當且穩健なることを示すべき絶大なる責任を有し居れり日本は既に一九二二年締約國が明白に支那の主權、獨立並其領土的及行政的保全を尊重すべき旨約せる九國條約に署名せることに依り上記責任を最も嚴肅なる條文に依り承認せり各國理事は日本に對し其の崇高なる名譽の觀念に訴へ其の特殊の地位並に世界各國が平和の組織及維持に參與せる一員として同國に與へたる信任に伴ひ其の負ふべき義務を認めんことを求む

右要請に對し理事會議長「ボンクトール」氏に與へたる我外務大臣答翰要旨（二月二十三日附）

我方に於ては今次十二國理事の申入に對し即時慎重なる考慮を加へたるか十二國理事が現下上海方面の事態の重大性を痛感し之が救済策を探索する爲め如何なる勞をも吝まざらんとしつゝある心事は多とする所なり、去り乍ら本申入れは必要なき方面に向て爲されたる嫌あり蓋し現下の武力的抗争を中止する途は一に支那側指導者の手中に在る次第にして日本は抗争を開始するを欲せざりしは固より現在に於ても最も之を嫌忌しつゝあり、尙我方に於ては最近理事會全體の討議に代へ部分的構成を有する委員會の討議を以てせんとする慣行の生れ來れることを遺憾とするものにして右慣行は聯盟規約の精神及文字に反するものなり我方に於ては今次關係理事の行動か其の動機に於て極めて善良なるものあり又其の事業には多大の困難を伴へることと認むるに吝まかならざるも右の如き異例が頻繁に行はるゝことは聯盟の手續に合致せざるものとして之を承認し難く一般世上に於ては斯る討議を理事會の行動と混同せんことを慮る

何れにするも我方に於ては十二國理事の希望に酬ゆるを禮と認め前添聲明を閣下より轉達せられんことを希望するものなるか是等理事の人道と平和との爲にする努力は之を感謝を以て了承すると共に日本としては現下の抗争終熄を偏に希望するものなることを斷言す

聲明

一、十二國理事か日本に對し申入れをなしたるは恰も日本か隱忍さへすれば上海の危急なる事態を直に終熄せしめ得へしとなすか如き寓意を含むものにして帝國政府の了解し得ざる所なり攻撃をなしつゝあるは支那側なるを以て之に對して申入れを

なしてこそ有効なるへし、尠くとも日本に對してのみ斯る處置に出づるは謂はれなきことなり。日本水兵が攻撃を受け之に抵抗したることを以て非とする趣旨に非ざる限り、何故我方に向つて抵抗を止めよとなすや。

二、十二國理事の申入れにして例へば上海附近に安全地帯を設定し、日支兩軍の離隔を圖るとか又は衝突を防ぐに足るの保障を提議するとか何等積極的提議を含むものならんには其の意のある所を諒解し得へけんも其の事なくして單に日本軍に對し武器を捨つるか或は引揚げんことを期待するは必然的に共同租界を支那兵の占領に委せんとするものにして支那側に於て斯る暴舉に出づることなかるへしと云ふものあらんも過去に於て既に一再ならず支那側は之を敢てしたる事實あり加之上海の動亂は過去に於ても常に無責任なる支那兵の惹起したるものなり。

三、申入中支那は終始紛争を平和的に解決するの用意あるに拘らず日本は然らずとなせるは最も不當なる點なり。支那は平和的方法以外には訴へずと宣言すへけんも事實は言葉よりも雄辯なり。支那側の攻撃的措置は平和的聲明あるの故を以て之を許し日本の防禦的措置は戰鬪的なりとて之を排斥するか如きは毫も理由なきことなり。日本か支那軍の攻撃に依り日々生命財産の損失を受けつゝある時に當り支那は平和的方法にて一切の紛争を解決するの用意ありと云ふか如きは誠に驚き入るの外なし。十二國理事か日本は國際聯盟規約に規定する平和的解決方法を無條件に採用することを肯せざりし云々の一節は帝國政府の了解し得ざる所にして日本は右の如き紛争解決方法に無條件に参加し來れるに非ずや。此等解決方法は其の間自衛措置を執ることを妨げざるは勿論にして聯盟の如何なる決議も之を禁するものに非ず、日本は平和的解決方法に依るか爲め單に理事會多數の決定に基き規約條項にも規定し居らざる異例を受諾するの義務なし。平和的解決に關する如何なる條約も正當なる自衛の權利を毫も妨ぐるものに非ざることは一般に認められたる公理なり。十二國理事か内實遺憾とする點は日本か無條件に問題の解決を彼等の手中に委ねざりしと云ふに在るものゝ如き處右は日本に於て拒絶するの法律上並に道義上の權利あり。日本は問題の解決を彼等の手中に委することを嘗て約束したることもなく又十二國理事の判斷、好意には滿腔の信頼を置くものなるか日本は自國か遠隔の何れの國よりも當然且必然に遙に良く事實を了解し得る地位に在るを信するを以てなり。

四、今回の申入れは聯盟規約第十條を引用し居れる處日本の措置は嚴に防禦的なるを以て何等同條規定に觸るゝものに非ず。

此點は五年前列國か上海防衛の爲め強大なる増援軍を派遣したるときに於ても英米軍か南京を砲撃したるときに於ても其他幾多類似の場合に於ても何れの國よりも本規約條項に付問題か提起せられたることなきに徴するも明白なり。同條は極めて妥當なる規定なるも國家自衛權を排除するものには非ず。又此規定あるか爲に支那に對し他國を攻撃するの自由を有するも他國は其攻撃を排除し得ずと云ふか如き特權を附與するものに非ざること云ふ迄もなし。

五、各國の對支出兵に於ける如く日本の出兵に際しても日本は聯盟の一員たる支那の領土保全又は獨立を侵害せんとするものに非ざるは勿論なり。從て十二國申入れ中に於て規約第十條に反し爲されたる所は之を有効と認むるを得ずと云ひ居れるも帝國政府は其の何を意味するや全然解するを得ず。然れども此の會機に於て再び帝國政府は支那に於て何等領土的又は政治的意圖を有せざること強調せんとするものなり。

六、帝國政府は支那に對し正義寛容を示す義務か九國條約當然の結果として生ずとの論を容るゝを得ず。一切の國に對して正義寛容を示すへき義務あることは條約を俟つ迄もなきところにして日本は欣然此義務を受諾するも同時に他國も亦日本に正義寛容を示さるれば欣幸なり。日本は因より九國條約上の一切の義務を遵守する用意あるも同條約調印國以外の國をも交へて又調印國の或ものを含ますして其規定に付き論議するは不便宜不適當なりと思考す。

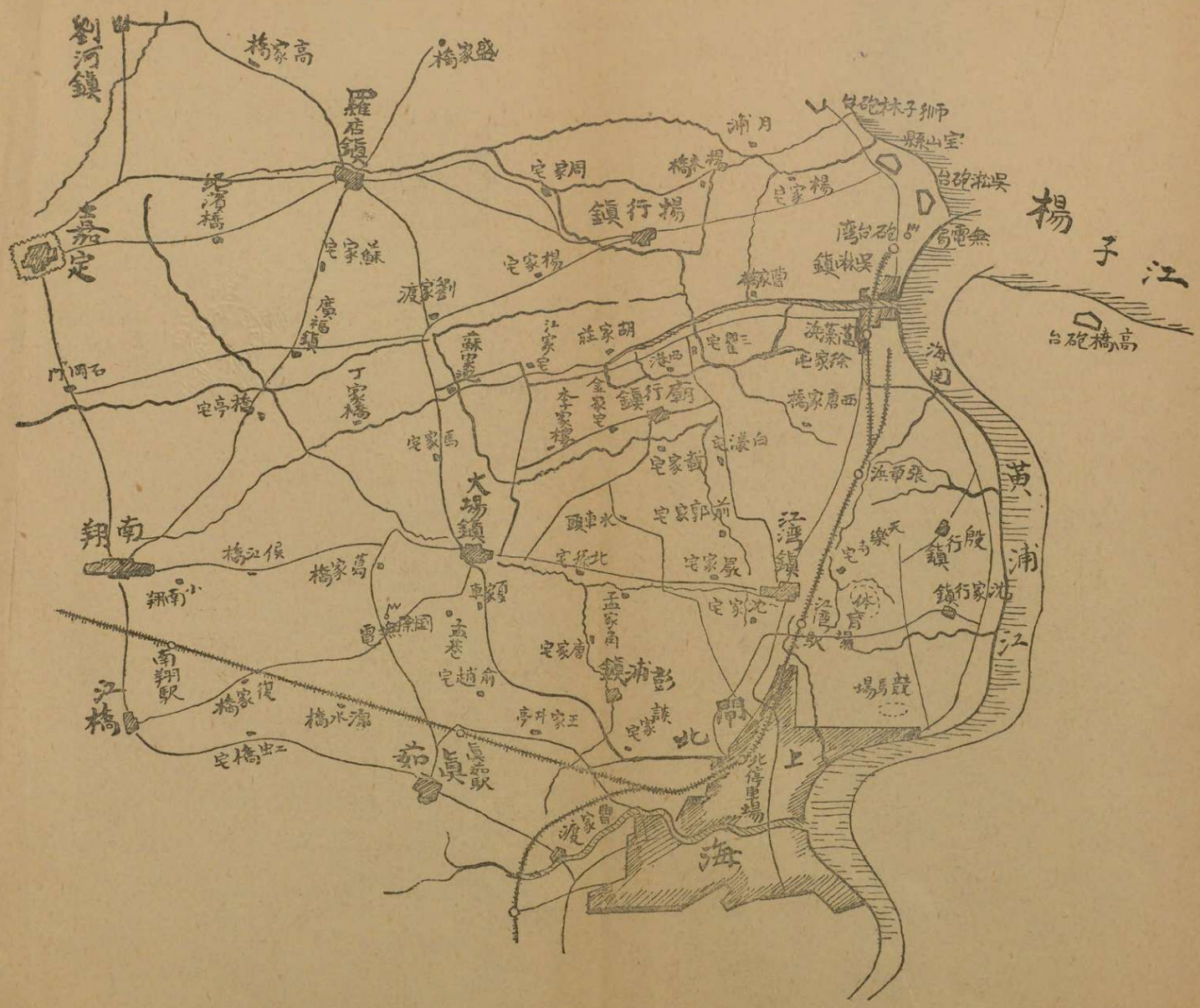
七、最後に帝國政府は支那を以て聯盟規約に所謂「組織ある國家」として思考せず。又思考し得ざることを強調せんとするものなり。過去に於て支那は各國の約束に依り恰も組織ある國家なるか如き取扱を受け來れるは事實なり。然し乍ら凡そ擬制は永續するものに非ず。又擬制を認むるか爲實際上重大なる危険か醸さるゝ場合には最早之を許容することを得ず、今や必然的に擬制を棄て、現實に直面すへき時期到來したり。從來一般に支那の幸福、繁榮、統一を欲するの餘り世界は現實に反して支那を遇するに統一國家を以てしたり。然れ共其の人民は部分的には結合あるも全體として組織せられ居らず。若し日本にして支那に何等利害關係なきものとはせば同地か「組織ある國民」に依り占據せられ居るものとする擬制を尊重し行く事を得へけんも日本は同地に巨多の利害關係を有するを以て此の上支那に於ける混沌たる状態を以て秩序ある状態なりとして取扱ふこと不可能なり。支那各地方に存在する權力は其の地方々々に於て實際上の力を行使し居るの事實のみに其基礎を有するものにして該地域を越へ

て支配を行ふの資格なし此の不正規なる事態は支那問題に對し聯盟規約を適用するに當り最も深く考慮せざる可からず支那に於ては單一なる統一國家の代りに諸種の粗笨なる組織體存す日本政府は固より此の現實の事態を直視することに依り生ずる各般の推論及結果を整理調和することの極めて困難なるを認む右は困難なるも必要事なり吾人は眞實に直面せざるへからず而して支那に何等統制ある政府なく又全支に對し完全なる支配を主張し得る權力なきことか根本的事實なり

八、以上帝國政府は十二國理事の人道に基く高潔なる申入れに對し簡單に其所見を述べたる次第にして之を要約再言すれば十二國か日本に訴へたるは恰も既に開かれ居る扉を無理にこぎ開けんと努むるに等しく該申入れは寧ろ攻撃を加へつゝある支那軍に對して爲さるべきものなること、斯る申入れか眞に有益且實際的ならんか爲には安全地帯設置と云ふか如き具體的提案を包含せざる可らざること、日本は支那と異り平和的方法に依り問題解決の意志なしとする點の謬なること、而して最後に支那の問題は事實及現實の基礎に於てのみ考察せらるべきものなること、而して事實支那は統一ある國家を構成し居らざること等を述べたる心算なり更に帝國政府は關係國をして此の異常なる措置に出せしめたる崇高なる目的と人道的努力とを深く諒とするものなることを繰返さんとす帝國政府は此等關係諸國か更に考慮を費すに於ては彼上帝國政府の述べたる所と所見を一にするに至らんことを信するものにして帝國政府は關係諸國に於て支那側をして過去五ヶ月間の戦闘行爲を惹起せるか如き挑發的行爲を止めしむる爲其の極度の努力を息めざらんことを深く希望す

一部世上に於ては日本に對し戰爭を獎勵し且つ之を希望するものなるかの如き惡評を負はさんとするものもあるも日本は之を強く斥くるものにして日本國民は戰爭及之に伴ふ避け難き慘禍を厭ふことに於て何國にも劣らざるものなり若し十二國の努力に依り支那側をして平和的態度を執らしむるに至らば何國よりも先づ最も之を欣ぶは日本國民ならん

上海附近圖



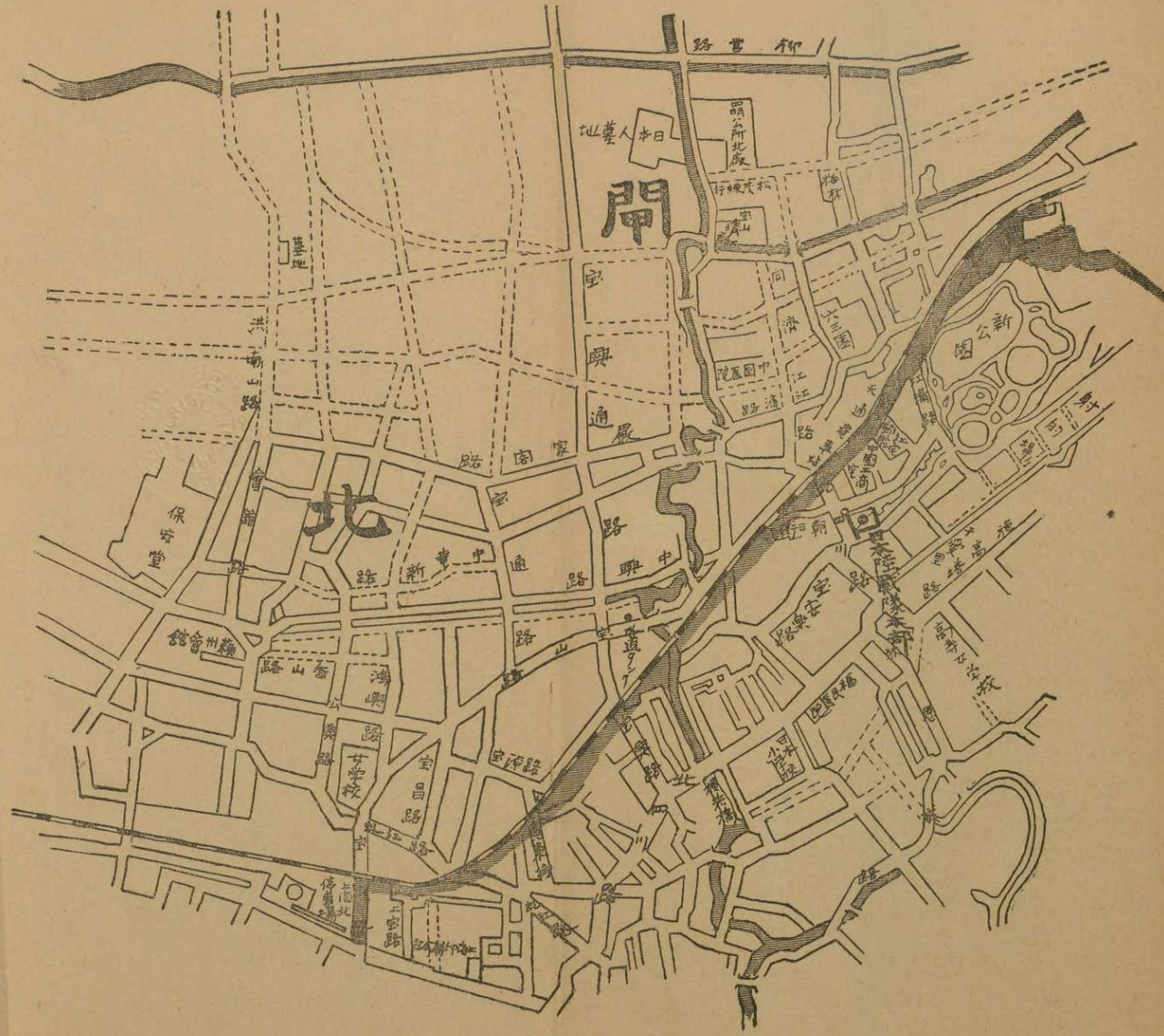
般の推論及結果を整理調和することの極めて困難なるを認めれば、吾人は眞實に直面せざるべからず而して支那に何等統制ある政府なく又全支に對し完全なる支配を主張し得る權力なきことか根本的事實なり。

八、以上帝國政府は十二國理事の人道に基く高潔なる申入れに對し簡單に其所見を述べたる次第にして之を要約再言すれば十二國か日本に訴へたるは恰も既に開かれ居る扉を無理にこぎ開けんと努むるに等しく該申入れは寧ろ攻撃を加へつゝある支那軍に對して爲さるべきものなること、斯る申入れが眞に有益且實際的ならんか爲には安全地帯設置と云ふか如き具體的提案を包含せざる可らざること、日本は支那と異り平和的方法に依り問題解決の意志なしとする點の謬なること、而して最後に支那の問題は事實及現實の基礎に於てのみ考察せらるべきものなること、而して事實支那は統一ある國家を構成し居らざること等述べたる心算なり更に帝國政府は關係國をして此の異常なる措置に出せしめたる崇高なる目的と人道的努力とを深く諒とするものなることを繰返さんとす帝國政府は此等關係諸國か更に考慮を費すに於ては彼上帝國政府の述べたる所と所見を一にするに至らんことを信するものにして帝國政府は關係諸國に於て支那側をして過去五ヶ月間の戰鬪行爲を惹起せるか如き挑發的行爲を止めしむる爲其の極度の努力を怠めざらんことを深く希望す。

一部世上に於ては日本に對し戰爭を獎勵し且つ之を希望するものなるかの如き惡評を負はさんとするものもあるも日本は之を強く斥くるものにして日本國民は戰爭及之に伴ふ避け難き慘禍を厭ふことに於て何國にも劣らざるものなり若し十二國の努力に依り支那側をして平和的態度を執らしむるに至らば何國よりも先づ最も之を欣ぶは日本國民ならん。

水雷戦隊各艦は晝夜交々水路に進攻敵を制壓す水路並に「クリーク」南岸に沿ふ敵陣地は毎日相當の損害を與へつゝある

上海開埠東北略圖



上海事件の經過 (其の五)

海軍省

海軍省
普及委員會寄贈本

昭和七年三月七日代謄寫

戰況

◎二月廿四日

海軍飛行機の大部は早朝より師團の戦團に策應し江灣鎮附近敵野砲陣地及橋梁に對し有効なる爆撃を實施し午後には上海方面に集中しつゝある敵の通路を絶つ目的を以て南翔站、眞茹站及新龍華附近の鐵路交叉點を爆破せり

一部飛行機は吳淞方面の戦團に策應して偵察爆撃に従事せり

陸戦隊正面の戦況には大なる變化なかりしも四明公所附近強行偵察中の高畑海軍中尉戦死外重傷一又寶興路陣地にて戦死一重傷一を出せり

◎二月二十五日

戰況

(一) 海軍

我飛行機の大部は午前六時三十分より陸軍主攻撃目標たる敵第一線及第二線に對する突撃の際爆撃砲撃突撃の最も緊密有効なる協同を實施す

一部の飛行機は江灣鎮西方機關銃陣地間北野砲陣地及新龍華驛北方鐵路交叉點を爆撃す

水雷戦隊各艦は晝夜交々水路に進攻敵を制壓す水路並に「クリーク」南岸に沿ふ敵陣地は毎日相當の損害を與へつゝある

も翌朝は大半修覆せるを見る

開北方面戦況變化なく敵は沈黙す

本日午前陸軍輸送船は我驅逐艦及飛行機の直接掩護の下に無事吳淞を通過して上海に溯江せり

(一) 陸軍

豫て着々攻撃準備中なりし師團は本日早朝豫定計畫に基き攻撃を開始す

攻撃の重點を江灣鎮の北方に指向し師團主力を以て當面の敵陣地に對し先づ飛行機及重砲の威力を擧げて之に集中其の効果發揮と相俟ちて廟巷鎮東南二軒金家壩及其の南北に亘る敵の第一線陣地を奪取す

續いて其の左方前面の敵陣地を猛撃破壊したる後午後二時二十分前進を開始し午後三時半頃後郭家宅を同四時半頃前郭家宅を占領せり

午前十時頃我砲兵の猛撃に依り敵第一線は動搖し始め金家壩附近より江灣鎮西南方水流西岸に亘る陣地を捨て、西方に敗走し二十三團附近に集合中偶々東進せる督軍隊(十九路軍)と衝突し我爆砲撃と相俟ちて多大の損害を蒙りたるも督軍隊の阻止に依り再び東進せるが如く我占領地域前の諸部落に出現せるも既に士氣沮喪し行動活潑ならず

江灣鎮部落内の敵は午後四時頃より退却を開始す

敵の新部隊大場鎮に前進中

支那軍の状況

各方面よりの情報を綜合するに上海附近の支那軍の状況概ね次の如し

(一) 支那軍隊の當初の配備概要

第六十師(師長 沈光漢、兵力七千)

主力開北、一部吳淞

第六十一師(師長 毛炳壽、兵力八千)

主力江灣鎮、大場鎮

第七十八師(師長 區壽年、兵力一萬)

主力眞茹、一部開北、吳淞

第八十七師(警衛第一師 師長 張治中、兵力一萬二千)

江灣、大場鎮

第八十八師(警衛第二師 師長 俞濟時、兵力五千)

江灣北方、廟巷鎮附近

馮玉祥太刀隊(兵力二千)

合計五師四萬四千の外に谷正林の憲兵團二團、魯滌平の浙江軍、保安隊、義勇隊混入しあるが如し

又眞茹、南翔、羅店、嘉定、崑山には玉均の八十九師(警衛第三師八千)及四十八師在り

(二) 然る處十九路軍(六十師、六十一師、七十八師)は損害甚しく(開北方面に於けるもの)にても死傷五千に達すと稱せらる)疲勞大なる爲眞茹方面に後退第一線は八十七師、八十八師及憲兵團四十七師(?)を以て大部交代せしめたるが如く玉均の八十九師も續々到着中との報なり

(三) 右軍隊は凡て蔡廷楷之を指揮す蔡の司令部は眞茹驛北西方約千四百米の小部落内「ベトン」製地下室に在りと

(四) 二十一日、二十二日の戦闘に於ける敵の損害は三千名に上り二十二箇所の赤十字病院に收容せられたりと謂ふ

又二十五日廟巷鎮方面の戦闘にて八十八師の損害莫大にして死傷者千名を下らずと

(五) 蔡は二十五日の戦闘の結果六十師及七十一師の有力なる部隊を大場鎮に移し同所を固守するに決せりと傳へらる

(六) 八十八師の惨敗及敗退時十九路軍督戰隊の味方討は南京方面にも大衝動を與へ同師のみが斯る打撃を受けたるに對し蔡に不満を懷くものあり(八十八師長俞濟時が防守困難を訴へ退却を乞ひたるに對し蔡は退却せば殺すと威嚇せりと謂ふ)但し八十八師及八十七師は面目上依然然戦線に参加する方針なりと謂ふ

(七) 蘇州にて二十三日支那軍は自國飛行機一を日本飛行機と誤り撃墜せりとの報あるも眞偽不明なり

(八) 鎮江及江陰砲臺は最近修理を施し獨乙製新式大砲を裝備せりと

◎二月廿六日

戦況

(一) 海軍

一、二十五日午後十一時十五分より開化の敵と砲戦約三時間我適切なる砲撃により敵は多大の損害を受け沈黙敵陣地三ヶ所に火災起る敵弾の爲北四川路方面に火災起りたるも陸戦隊員に依り鎮火せしむ

二、二十六日我航空母艦より發進せる攻撃機戦闘機十數基は午前七時笕橋飛行場(杭州の北東)を爆撃大型機一、小型機四(其の時同處に在りし全部)を概ね使用不可能なる程度に破壊更に戦闘機隊は杭州の東五哩の新設飛行場に敵機約十五基離陸反撃せんとするを發見して之を掃射二基を飛行不能たらしめたり此の間我戦闘機は反撃し來れる敵戦闘機數基と勇敢なる空中戦闘を交へ其の三基を撃墜せり

右戦闘に於て我攻撃機一は地上よりの射撃を受け冷却器を破損し錢塘江口に不時着又他の一機は其の飛行線を射断せられ同所附近に着水の已むなきに至り何れも搭乗者は驅逐艦に收容せられしも飛行機は放棄沈没す右二基の外他の飛行機は全部午前八時四十五分歸着す

三、午後一時三十分他の攻撃戦闘機隊は再び笕橋飛行場及新飛行場を襲撃せるも敵機の大部は既に南京方面に逃避せる如く只飛行不能の爲か飛行場に尙殘留しありし敵機五基を爆撃破壊して歸還せり

右午前及午後兩回の襲撃にて敵機九は確實に撃破せり

四、吳淞方面は状況變化なく吳淞「クリーク」以北一帶の敵陣地に對し間接射撃を加へ相當損害を與へたり

五、我巡洋艦戦隊は引續き獅子林砲臺方面に出動し本日も午前午後に亘りて同砲臺を砲撃す

二十日以後我砲撃に依り六糶砲二、十五糶砲一、觀測所一を破壊し尙三十糶砲、二十四糶砲等の大口徑砲に一乃至四

發を命中せしめ兵舎一棟、火藥庫一を爆破し全砲臺に相當の損害を與へたるが尙本日我飛行機は更に同砲臺を爆撃し更に大口徑砲三門を破壊し火藥庫一を爆發せしめたり

六、我飛行機は午後滬寧線引込線(内外棉對岸)を爆撃せり

(二) 陸軍

二十六日午前師團正面に於て最も堅固に設備せられたる嚴家橋(江灣西北側)の陣地を奇襲を以て完全に占領したる外大なる變化なし

支那飛行機移動

廿六日午前より午後に亘りて支那飛行機南々東方向より南京に着の上若しくは南京を通過して北西方に飛び去りしもの十數基に上れるが右は杭州より逃げ歸れるものと想像せらる

支那軍の増援

確實なる情報に依れば相當多數の陸兵南京方面より上海に増援せり

◎二月廿七日

戦況

一、海軍

(一) 開北の敵に對し屢々有効なる砲撃を加へ大なる損害を與へたり敵は全く沈黙を持續せり

(二) 吳淞方面に於ては大なる變化なし

(三) 飛行機隊は獅子林砲臺を連續爆撃して相當の損害を與へたる外陸軍の突撃に策應して江灣鎮西角を爆破せり

二、陸軍

廿六日午後江灣鎮西端を占領したる外大なる變化なし

◎二月廿八日

戦況

一、海軍

- (一) 我飛行機は黎明時より吳淞要塞及獅子林砲臺の殘敵掃蕩制壓に努め敵に相當大なる損害を與ふ
- (二) 他の飛行機隊は陸軍に協力して午前中爆撃を以て大場鎮南方敵陣地、同地附近火藥庫、虹橋飛行場格納庫、廟巷鎮敵陣地、閘北鐵道引込線を爆破し大なる損害を與へたり

- (三) 閘北方面の敵は昨夜來後退移動しつゝあるものゝ如く我適切なる砲撃に依り多大の損害を蒙りしも更に反撃の氣勢なし

- (四) 吳淞に於ては我水雷戰隊は黃浦江口に近接して吳淞「クリーク」以北敵砲兵陣地を猛撃して之を制壓す

- (五) 陸兵搭載の我艦船は航海中天候の障害大なるにも拘らず概ね豫定の如く吳淞沖に到着他隊の敵制壓下に些の損害なく黃浦江に進入し正子近く其の揚陸を終れり陸兵は途中異常の荒天に會したるも豫想外に元氣にして勇躍上陸せり

二、陸軍

爾後の攻撃準備中

支那軍の配備

上海方面支那軍隊の配備に就き左の如き情報あり

- (イ) 大場鎮附近。六十一師を基幹とし十九路軍の一部八十七師、八十八師の殘部(八十八師は大損害を受け居れり)並孫連中の二十七師の一部

- (ロ) 閘北方面。十九路軍の一部義勇軍保安隊並孫連中の二十七師約三千(太刀隊)及陳誠の舊教導隊第三師の一部。

- (ハ) 蔣鼎文の第九師約一萬崑山蘇州間

- (ニ) 上官雲相の四十七師の半分は蚌埠半分は鎮江蘇州間

- (ホ) 梁冠英軍は鎮江南京間駐屯の豫定なるも目下揚州靖江附近に在り

- (ヘ) 華僑(南洋在住支那人)より十九路軍への送金既に四百萬元を越え(更に五百萬元を後送する言ふ)全國を推算すれば千八百萬元に達すと

- (ト) 蘇州飛行場に在りし敵飛行機は我爆撃に依り相當の損害を受けたる如く又數次の我空襲に恐をなし殆んど全部蚌埠に逃避したるが如し

後方警備關係事項

- (イ) 工部局と協定し擔任租界及租界延長道路方面に於ては互に協力警備し其の他の我占領地域は陸戰隊單獨警備に當りつゝあり

- (ロ) 軍事警察は配屬憲兵及補助憲兵(海軍兵)三十名を以て之を執行す

- (ハ) 二月十八日以後警備統制機關として日本人俱樂部に後方警備本部を特設陸戰隊指揮官指揮の下に警備關係事項を處理せしむ

- (ニ) 陸戰隊警備區域中靴子路以北は一般の交通を禁止し來りしも廿五日以後禁を解き檢問を工部局に移せり此の結果電車「バス」も「ブロードウエー」の外西華德路に運行し始め吳淞路方面晝間人出漸次頻繁となれり

- (ホ) 右以北地域は今尚ほ便衣隊盜賊出沒し街燈も黙せず陰慘なる光景を呈する事従前と異らず

- (ヘ) 二十七日午前我總領事館及出雲の様子を窺へる舉動不審の支那人領事館巡查及工部局邦人巡查の誰何により「アスタ」一ハウスホテルに逃げ込まんとせしを逮捕工部局警察の手により我方憲兵隊に引渡せるが同人は携帶品其の他より第十八師獨立旅長王齋なること判明目下陸戰隊にて保護取調中なり(其後釋放す)

本日英艦「ケント」に於て「ケリー」提督立會の上日本側より野村長官及松岡洋右氏支那側より王第十九路軍參謀長顧維鈞出席し約二時間半に互り停戦に關し懇談し本日政府に稟申する處あり

◎二月廿九日

戰況

一、海軍

(一) 連日の我有効適切なる砲爆撃に依り開北方面の敵は漸く動搖の色あり四明公所方面の陸戰隊開北江灣間交通線遮斷の目的を以て我飛行隊と協力午前九時砲撃爆撃開始午前十時三十分突撃奮戰約五時間の後柳營路虹口「クリーク」交叉點敵陣地を占領し日本人墓地に至る線を確保せり

敵は我飛行機の爆撃に制壓せられたる模様にて午後四時以後我飛行機影を認めざるに到りて始めて緩徐なる重砲撃を行へり本日の戦闘に於て壯烈なる戦死を遂げたるもの九名重傷九(内兵曹長一)輕傷五

右の戦闘に参加せる飛行隊は更に眞茹に於ける敵の集團及廟巷鎮敵野砲陣地に對し爆撃を加へ何れも相當の効果を收む

(二) 他の飛行隊は吳淞砲臺の殘敵攻撃を行ひ敵野陣地を爆破し敵陣に火災を起さしむ

(三) 我軍艦一隻及驅逐艦二隻は二十八日午後出動し二十九日杭州灣乍浦灣方面に伴動して陸軍部隊の揚陸に策應し亦一部飛行機は之に協同し杭州飛行場を偵察せしが同飛行場には敵機を認めざりしも地上より射撃を受けしを以て之に對し爆撃及掃射を行へり

(四) 陸軍部隊を搭載せる我軍艦數隻は二十九日午前某地點着陸兵を驅逐艦、運送船等に移乗せしむ此の日天候良好にして作業着々進捗夜に入りて我軍艦及驅逐艦護衛の下に揚陸地點に向へり

二、陸軍

二十九日白川陸軍軍司令官上海に到着

新に到着せる部隊を戦線に加入せしめ三月一日張家橋、大行橋、夏馬灣を目標とする總攻撃準備中

◎三月一日

戰況

一、海軍

(一) 従來揚子江口に行動中なりし我海上部隊及水上飛行機隊は早朝より豫定通り陸軍揚陸掩護に従事す陸軍部隊は午前五時二十五分の第一發進部隊を初とし揚陸を決定し機銃を裝備せる防禦陣地に據る敵小部隊の抵抗を排除し護衛各部隊の協力を相俟ちて殆んど損害を蒙ることなく午前八時師團司令部を最後として圓滑裡に其の主力部隊の敵前上陸を完了せり
飛行機は早朝より日没迄上陸軍に協同上陸地點附近一帯に亘りて連續偵察中午前十時頃より揚陸地點方面に集中する敵増援部隊を認め爆撃を加へしが午後更に十數臺の自動車にて續々集中せんとする敵に對し全力を以て爆撃を行ひ自動車數臺を爆破し尙敵陣地に多大の損害を與へたり

(二) 陸戰隊は昨日占領せる陣地を確保すると共に砲隊を以て大場鎮を砲撃し陸軍の前進に協力す特に江灣、大場鎮方面より敗走する敵の大部隊に對し多大の損害を與へたり
艦上飛行隊は全力を擧げて右に協力陸軍正面の敵陣地及敗走する敵に對し徹底的打撃を與へ更に北停車場西方引込線を完全に爆破せり

(三) 午後一時五分黃浦江灘山碼頭沖の繫留浮標に繫留中の我輕巡洋艦の右舷約三十米に於て、續きて同二時二十二分帝國總領館前郵船碼頭に横付中の我軍艦艦尾約五十米に於て機雷類似のもの爆發水柱二十米に及べるも何れも損害なし調査の結果浦東側より電線を導きあるを發見警戒を更に嚴重にす

一、陸軍

(一) 新に到着せる部隊の一部を加へて豫定の計畫に従ひ第三次攻撃を決定し早朝より攻撃を開始して正面約四軒縱深約二軒を奪取し夕刻南孫宅、中心巷(以上廟巷鎮東北約二軒)廟巷、田園、四車站及其の南方の線に進出せり本戦闘に於て歩兵聯隊長林大八佐は江灣鎮西方敵陣地の要點攻撃中名譽の戦死を遂げたり其の他戦死傷約三百にして戰場に遺棄せる支那軍の屍體は約千八百に達せり

(二) 我第〇師團の主力は午前六時より豫定地點に上陸を開始し當面の敵を驅逐して午前中に上陸を完了し直に劉河鎮に向

け前進す

上陸地點附近の敵は約一營なりしが如く我に殆んど損害なし午後に至り劉河鎮方面に敵兵増加の模様あり我飛行機を以て之を妨害阻止す

軍事上に鐵道使用に關する警告

村井總領事(上海)は我海軍側の要求に依り二十九日附公文を以て左記の通吳上海市長に通告すると共に各國領事に口頭通知せり

「確報に依れば支那軍は近來鐵道を利用して増援軍を當地方に集結しつゝある處右は徒らに事態を擴大する結果を齎すべきに付右を繼續するに於ては日本軍は自衛上已むを得ざる措置として三月二日以後嘉興上海間(滬杭甬線)及蘇州上海間(滬寧線)との間に於て支那軍の使用する鐵道線及軍用列車破壊を企圖せざるを得ざるに至るべく其の節一般住民に對する危害を豫防する爲右當方に於ても周知方取計ふべきも市長よりも上海附近に周知方取計はれ度」

◎三月二日

戰況

一、陸軍

(一) 陸軍は前日に引續き總攻撃を行ふ敵兵算を亂して退却午後零時半我軍は早くも大場鎮、次て彭浦鎮に進出、眞茹、南翔に向け敵を追撃し概ね當初我要求せる撤退區域外に放逐せり

二、海軍

(一) 我飛行隊の大部は右戰團に協力して午前十一時十分崑山鐵橋を爆破し又嘉定、羅店、太倉、南翔方面の敵に對し幾度か反覆爆撃掃射を加へ多大の損害を與へたり

(二) 我水上飛行機は新に上陸せる陸軍に協力劉河鎮、羅店方面の敵偵察及爆撃を行ひ特に羅店に於ては敵密集部隊に多大の損害を與へたり

又輕巡洋艦數隻は陸軍の希望に依り午後零時半より陸軍上陸地點附近に陸戰隊數百を揚陸し陸軍の後方根據地及交通線の確保並敵の掃蕩に任ぜり

(三) 陸軍の作戰に呼應し我特別陸戰隊は閘北、柳營路に沿ひ進出したる後更に南下して閘北の敵を包圍午後二時より全線に亘り前進日沒迄に右方は共和路左方は北停車場間に於て概ね北停車場蘇洲會館を連ぬる南北線に進出し一部隊は内外棉對岸に達し略閘北の敵を掃蕩せり

閘北一帶の敵は退却に際し放火せる爲火災各所に起り敵の遺棄せる彈藥隨所に引火自爆し之が爲に戦死一、重傷一、輕傷二名を出せり

雜件

(一) 十九路軍は南京政府が應援要求に應ぜざる爲自發的に退却すると宣傳しつゝあり

◎三月三日

戰況

(一) 吳淞砲臺占領

我艦隊司令長官は三日早朝主として水雷戰隊、特別陸戰隊、陸軍吳淞技隊及海軍飛行隊の一部を以て尙殘敵の頑守する吳淞砲臺を攻略するに決し水雷戰隊司令官を其の指揮に充つ諸部隊は水雷戰隊及飛行機の掩護射撃爆撃の下に午前七時場陸を開始敵の反撃を排除驅逐して午前九時三十分完全に吳淞鎮及砲臺に亘る全面を占領せり

(二) 陸軍の戰團行爲

陸軍は昨二日の戦果を確實ならしむる爲情勢に應じ戰團動作を採るに止まり積極的攻撃を行はず

野村艦隊司令長官の聲明

二日午後二時野村司令長官は左の聲明を發せり

「帝國海軍は上海附近に於て帝國陸軍と共に平和的手段に依り帝國居留民保護の任務を達成せんことを努力したるも此の見地によれる我軍の要望は不幸にして支那第十九路軍の容るゝ處とならず遂に戦闘行為を惹起するに至れり今や支那軍は當初要求したる距離以外に退却し帝國臣民の安全と上海租界の平和は茲に恢復せらるゝに至れるを以て本職は支那軍にして對敵行動を執らざる限り戦闘行動を中止せんとす」

右と同様の聲明陸軍司令官よりも發せらる

◎三月四日

吳淞燈臺の點燈復舊布告

昨三日吳淞方面の第十九路軍を完全に驅逐し且吳淞燈臺及同副燈を復舊點燈し水路の安全を確保せるにより此旨第三艦隊司令長官の名を以て布告す

閩北及附近平穩

閩北は一二放火ありし外一般に平穩我陸戰隊に依り秩序維持せらる

本日より閩北以外の我警備区域内の一般交通を許可し復興に努めつゝあり但し鞆子路以北は内外人及證明ある支那人に限り交通を許可せり

一般市況俄に活氣を呈す

海軍の警備區域

海軍陸戰隊は閩北及租界前線の警備に任じ戰場清掃及治安維持に當る

陸軍の警備區域

陸軍は第一線を以て劉河鎮、嘉定、南翔、真茹の線を占め占領線内の守備に任ず

雜件

(一) 四日より海軍巡回診察班を閩北に巡回主として同方面支那人に對し施療せしむ

(二) 鎮江に於て本月三日新兵募集に着手人心稍や動搖し江北に避難するもの多しと

(三) 第十九路軍の司令部は蘇州にありと

(四) 三日夜南市(上海支那町)公安局巡捕は中國軍隊大部の撤退其の他の謠言に怯へ殆んど全部影を潜めたるが今朝來漸次復歸しつゝあり

上海事件の經過 (其の六)

昭和七年三月十九日

海 軍 省

◎三月五日

一、一般情況

- (一) 四日夕東亞同文書院(佛租界の西方租界外)に陸戰隊を分派す
- (二) 四日夜午後七時三十分頃より約三時間に亘り佛租界及共同租界南京路方面にて爆聲起り支那群集の騒動ありしも我警備區域は平靜に經過せり

右の騒動に關し五日工部局は謠言を放ちたる中國新聞に壓迫を加へ煽動者と目せらるゝ者を處罰することに決せるが五日にも南京路方面租界内目抜の街にては支那商店の大部分國旗を掲揚し居れり支那人は依然虛報に迷はされて支那側の勝利を信じ其の戰勝祝賀の爲爆竹を鳴らし國旗を掲揚中なりと

- (三) 第十一師團上陸地點に揚陸中なりし我陸戰隊の一部は五日午後撤退歸艦す

- (四) 海軍飛行機數臺蘇州偵察を行ひたるも異狀なし

- (五) 交通制限の緩和に伴ひ晝間は靶子路以北に出入するもの激増せるを以て陸戰隊は同方面に兵力を増加し工部局と協力治安維持に努めつゝあり。

- (六) 靶子路以南は交通機關略恢復し活氣を呈す

二、野村第三艦隊の麾下一般に對する訓示

野村長官は五日左記訓示を麾下一般に與へたり

今次上海事變突發以來募兵を以て良く多數の敵に痛撃を加へ陸軍との協同宜しきに從ひ茲に閩北一帶及吳淞砲臺地域より敵を擊破驅逐し租界並國際水路の安全を確保し以て作戰目的を達成し得たるは邦家の爲慶賀措く能はざる處なり

奮戦力闘茲に二ヶ月餘第一線に在りて銃砲火に曝露せる海陸空諸部隊は勿論軍需品の配給に當れる後方部隊又上海以外の上流各地に在りて本事變の餘波を未然に防止するに努め各部隊等擧げて上指揮官より下一兵に至る迄不眠不休熱烈なる盡忠報國の至誠一貫し列國環視の間に於て赫々たる武威と嚴肅なる軍律を嚴守克く皇軍の眞價を發揚したるは本職の衷心満足する所にして深く其の勞苦を多とす

今や能動的戰闘行爲を停止したりと雖も休戦を意味するに非ず時局の收拾には前途尙遠遠其の間局面轉換を測り知る可からずして須臾の油斷を許さざるの秋なり此の際一層警戒を嚴にし千仞の功を一篋に缺くの悔を殘さず有終の美果を收むるに格別の努力を致さんことを切望す

此の機會に當り居留民保護及帝國權益擁護の崇高なる任務遂行に斃れたる榮譽ある戰死戰傷の勇士に對し滿腔の敬意を表す

三、雜件

(一) 五日申報(上海にて發行する支那新聞にして「新聞報」と共に最も有力なる新聞なり目下中立不偏を標榜又發行高支那に於て最大)は其の社説に於て國民黨は既に單獨救國の能力なし速に一黨專制を取消し政治を公開せよ國家存亡の秋自發的に訓政を停止し人民をして政治に干與せしめ俱に國難に赴くの機會を與ふべしと論じ公々然と國民黨を罵倒し其の附屬を責め間接に蔣介石を責め居れり

◎三月六日

一、一般情況

(一) 陸戰隊警備區域内一般に平穩北四川路狄思威路方面の土囊等の防材全部撤去され街燈を點したるも未だ開店するに至らず

二、雜件

(一) 閩北方面戰場整理略完了竊盜等小警察事故ありしのみ公安局巡捕未だ姿を見せず

(一) 五日夜又四日夜の如く爆竹騒ぎありしが五日の騒動は馮玉祥崑山に到着せりとの虚報に因るものなりと

(二) 信すべき情報に依れば二月廿六日我海軍飛行隊の杭州を爆撃せし際折柄同地の會議に出席中の蔣介石始め會衆に大なる脅威を與へ蔣介石は會議もそこへ南京に引揚げたりと

(三) 南市の支那人は日本飛行機の爆撃を恐れ今尙共同租界又は佛租界に引揚げつゝあり

(四) 各方面の情報を綜合するに支那人中無智昧の下層階級は論外として中流以上及智識階級の對日感情は邦人の想像以上惡化し居るが如し

◎三月七日

一、一般情況

(一) 市内概して平穩なるも北四川路狄思威路方面支那人の家財を運搬し他へ移轉するもの多し此方面の回復には相當長日月を要するものと認めらる

(二) 四日より實施せる巡回診察班(出雲及陸戰隊自動車にて主として閩北方面支那人に對し施療するもの)の診察者は六日十五名七日六十六名にして漸次好成绩を示しつつあり

二、陸軍情況

(一) 全線に亘り靜穩なりしも只午前十一時我〇師團正面たる西涇營に向ひ敵の一部攻撃し來れりとの報告あり軍は之に對し現在線に於て戰闘し積極的攻撃を行はず

三、市況

(一) 第二次上海派遣軍の一部七日午前十一時三十分吳淞棧橋着

(二) 南市附近に於ては支那人間に「虬口北四川路及其の近接地區に於ては日本軍人支那人に對し非人道的行爲を盛に行ひ

つゝあり」との流言行はれ該地區より南市又は租界内に避難せる支那人中には之を信じて舊住宅に復歸を欲せざるもの多かりしに昨今北四川路方面の自宅を片付け家財を纏めて租界内又は他に搬出する向多し

右は南市の宿屋等にて客止策として流布する流言なるも其の主因は支那軍漸次蘇州劉河方面に集結し近く大々的攻勢に轉じ開北方面を奪回すと云ふ謠言に迷はされたる結果にして北四川路一帯は一月末日頃の混雜再來を思はしむるものあり

(一) 茲二三日來毎日佛租界に於て邦人の支那人暴徒の爲殺傷せられたる事件あり尙抗日反蔣罷市繼續の傳單南京路に現はれたる等一般支那人の對日感情悪化の現象と見るべし

(二) 上海在留外人方面の空氣は幾分宛我國に好轉しつゝありと認めらる而して上海の空氣は四五日後に於ける各本國の空氣に影響するを常とす

四、本會は第三艦隊より除かれて午後四時半佐世保に向け上海發

◎三月八日

一、一般情況

(一) 陸軍十一師團の上陸場基地守備の爲派遣中なりし第三戰隊陸戰隊は本日午後一齊に撤退歸艦す

(二) 黃浦江上流龍華に繫泊中の日清汽船社船は支那側の保護に任せありし處現狀にては危險無かるべしと認め先方の諒解を求めたる上各船へ支那船員三乃至五名宛復歸せしめたり

尙現場に立會に赴きし日清汽船の監督の談に依は各船共今迄水夫二名宛乗船し船内の器物は完全に保護せられありたりと

二、白川軍司令官の聲明
我陸軍の警備區域正面に於ける支那軍の蠢動に關し白川軍司令官は本日午後左の聲明を發せり

軍は平和的解決を欲して三日聲明を發し自發的に攻撃を停止せしに拘らず支那軍は其の後盛に梅李崑山附近に陣地を構築し再び兵を返して太倉附近に集合し其の一部は近く我警戒線を窺ひつつあり斯の如きは軍の誠意を無視するものにして余の衷心遺憾とする處なり

若し夫れ爾今支那軍にして左記地線内に侵入するに於ては或は我監視巡邏の兵と衝突すること無きを保し難し端に發して事態を再び悪化紛糾せしむるに於ては其實支那軍に在り地線(北より)六濱口。浮橋鎮。岳王市。外岡鎮。安亭鎮。白鶴港鎮同地以東は蘇州河の線を租界迄とす

三、市況

共同租界工部局にては開北一帯の衛生狀況不良にして租界を脅威するものなりとて何等かの對策を講ずるを認め不取敢之が調査を行ふこととなれり又租界外地區の電氣水道瓦斯電話の復舊に就きても漸次需用者側より希望申出あり工部局にては夫々會社と交渉し速かに之が復舊を促すことに盡力中なり

四、病院船室戸本日午後上海着

◎三月九日

一、一般情況

(一) 警備區域内引續き平穩なるも支那人の南市方面に引揚ぐる者益々多く晝間北四川路一帯雜踏す

(二) 虹口方面の邦人商店娛樂慰安機關等開業し漸次常態に復しつつあるも支那人の開店するもの尙尠し

(三) 海軍巡迴診察班の施療者は八日一四〇名九日約二〇〇名にして成績益々良好なり支那側は之を以て市政府衛生事務を犯すものとなし警察權回復と結び付け一流の宣傳を爲しつつあり

(四) 二月末日迄に邦人引揚概數は一二、七〇〇餘名にして二月五日、二十五日、二十八日の引揚者最も多し

二、市況

一、共同租界工部局にて開北方面に衛生救濟等の施設を行はんとする氣配あるを察したる吳市長は八日各國領事宛支那軍隊撤退地域は當然支那側にて治安衛生等の施設を行ふものなることを通告せり本件に關し工部局は右通知を重視し居らざるが如し

(一) 開北方面支那人の引揚は引續き行はれつつあるが八日夜引揚後家屋に放火せんとせしもの三件あり何れも未然に之を

發見防止せるも邦人居住區域焼打の謠言もある際嚴に警戒す
事變以來海軍死傷者數(三月十日調)

死傷/官階	士官	特務士官准士官	下士官	兵	計
戰死	七	四	二四	一一二	一四七
重傷	八	五	三三	一四六	一九二
輕傷	一〇	一一	三四	二一五	二七〇
計	二五	二〇	九一	四七三	六〇九

右の外二月廿八日調微傷者約三二五(内准士官以上一四)

四、上海に艦艇より派遣せる陸戰隊は速に撤退する方針を以て左の通り實施中

(イ) 安宅陸戰隊六日撤退

(ロ) 第三戰隊並に出雲陸戰隊八日撤限

(ハ) 大井及第十五驅逐隊は十日撤退の豫定

(ニ) 右にて残り常警陸戰隊のみなるも目下出勤中にて實施不能(追て三月二十日撤収を實施す)

五、赤十字救護班一行本日佐世保海軍病院到着救護作業を開始す

六、昨八日前進基地の飛行機を全部母艦に收容せり

◎三月十日

一、一般情況

(一) 租界外開北方面支那人續々家財を纏め引揚ぐるに反し邦人の復歸活潑に行はれ内地より歸還するもの便船毎に相當多し

(二) 開北治安維持は圓滑に行はれ十日診療班の受療者二百十一名に達す

二、支那軍の配置

十日迄の諸情報を綜合するに不明の點あるも大體次の如し

(一) 第十九路軍(推定殘存兵力一萬二千) 目下蘇州に集結中なるも改編せざれば軍を成さざる程の損害を受け居れり近き常地方に移動の豫定

(二) 第五路軍(八七、八八師推定殘存兵力一萬内外) 常熟に集結し九師(蔣鼎文) 四七師(上官雲相) 及梁冠英、孫連中の各二個團は崑山太倉の線に配備さる

(徐源泉の二個團も此の方面に在りと言はるるも眞偽不明)

(三) 蘇州には軍隊充満し住民は盛に避難中なり(上海の租界に來るもの又は鐵道線路より離れんとするもの) 軍隊の移動盛なるも概ね夜間に行はれつつあり

三、雜件

(一) 十日申報は第二次中央全體會議を評すと題し大要左の如く國民黨に痛罵を浴せたり

(イ) 國民黨は「黨亡べば國亡ぶ國を救はんとせば先づ黨を救はざるべからず」となせり之國を黨の犠牲にせんとするものなり

(ロ) 中央全體會議にて禦侮を決議せり然れども政府は何をなせるや十九路軍の苦戰顔代表の奮闘の外何もなし今日の禦侮は第一次中央全體會議の失地回收と等しく一の空言に終るや必せり

(ハ) 國民黨の腐敗怠慢は既に其の極に達せり國民黨の決議宣言の如き國民を欺く手段に過ぎず

(ニ) 支那軍の敗因に付蔡廷楷の談話として左の如く傳へらる

(イ) 馮玉祥と蔣介石との間に軍の指揮權に關する掛引ある爲に授軍の出動遅れたり

(ロ) 中央財政は極端に窮迫し居れり

(ハ) 汽車汽船の利用困難となりし爲軍の移動に手間取れり

尙蔣介石は對日長期抗爭の具體案を有し着々準備を進め居るに付悲觀を要せず蔡自身も部隊の整理出來次第最前線に出動の決心なりと

四、故矢部、藤井兩少佐及芹川航空兵曹の遺骸發見

極力搜索中なりし故矢部少佐故藤井少佐及故芹川航空兵曹の遺骸十日眞茹鎮墜落場の南方約二百米にある支那人墓地第十九路軍戦死者の間に三名同所に鄭重に埋葬せられあるを發見せり

◎自三月十一日至同十四日

一、一般情況

- (一) 陸戦隊警備區域内支那人の引揚引續き行はれつゝある外概して平穩なり
- (二) 十三日夜より交通禁止時刻を午後十一時三十分に変更(工部局發表)
- (三) 蘇州河以南へ邦人の出入は尙危険なり
- (四) 海軍診察班は毎日二百名内外の支那人患者を取扱ひ成績良好
- (五) 蘇州以西の地區には鐵條網を張る等陣地を構築して抵抗準備をなし居るも積極的行動に出でんとするが如き氣配を認めず

二、陸軍情況

- (一) 南翔停車場西方一軒の鐵道守備兵は九日十日十一日夜二三名の便衣隊に襲はれ十一日夜には我兵一名負傷せり
- (二) 十日午後一時頃我將校斥候は南翔南方地區(聲明線内)を警戒中蘇州河を超へて侵入せし機關銃を有する敵兵約一ヶ小隊に射撃せられ我兵一名負傷す奮戦して之を撃退す
- (三) 十一日午前十時頃嘉定南方約四軒の地點に於て水路偵察中の我運輸部發動艇は數發の敵彈を受けたるも人員器材に損害なし右は便衣隊の行爲と思はる
- (四) 十一日夜敵騎兵約三十名婁塘(嘉定西北六軒)の我守備隊の歩哨を襲ひしに依り之に應戦一時間の後撃退す

(五) 軍前面に於ては有力なる敵部隊の活動は認めざるも敵正規軍の我聲明線に侵入して戦鬪を起せしもの二件ありし外便衣隊の活動は漸次活潑ならんとす

三、雜件

- (一) 蔣介石と蔡廷楷との關係
蔡廷楷の南京より蘇州に歸りたる後の態度より察するに蔣介石との間に相當諒解成れるものゝ如し目下の境遇上蔡としては陳濟棠(現在廣東に在り廣東軍の總首領)又は蔣介石の何れかに附隨する外第十九路軍保全の途無かるべしとのことなり
- (二) 支那某要人の談として「上海南市を戦禍より免れしめたる日本海軍の努力と誠意は吾人の能く了解せる所にして此點感謝しつつあり」と傳へらる

◎自三月十五日至同二十日

一、一般情況

- (一) 十五日午前八時より舊警備區域内の交通を自由とし電車バス共常態に復す
- (二) 支那人の出入は北四川路以東を自由とし北西(閩北共)は從來通工部局バス所持者に限定せり
- (三) 十五日より約四日間工部局土木科は支那苦力約五〇人を使用し虹口クリーク等修理及鐵路線(閩北寶山路筋を含む)地區の汚物清掃を行ふ事と爲れり
- (四) 支那人より聞込みに依り北停車場西南方支那家屋を陸戦隊員を以て搜索せるところ便衣隊密會し居るを發見直に逮捕し調査したるに四名の内二名は第六十師參謀なること判明之れを憲兵隊に引渡せり
- (五) 十八日午後一時新公園に於て上海事變海軍戦病没將士慰靈祭を行ふ海陸軍兩侍從武官、軍司令官、第九師團長、公使總領事を始め陸軍派遣隊幹部、英、米、佛、伊、海陸軍將校約三十名其の他官民多數の參列あり極めて壯嚴盛大にとり行はれたり
- (六) 閩北東部の道路清掃一段落着きたるを以て十八日より一般の出入を許可す西部は家屋の破壊極めて僅少なる爲支那人

—(九)—

の復歸する者漸く多く従て診療班の成績は連日二百名以上を示し陸戦隊は無頼の徒の取締、盜難防止警戒等警察事務に繁忙を極めつゝあり

(七) 舊警備區域内は邦人の歸還する者多く復興盛にして陸戦隊は憲兵、工部局、領事館、警察と協力治安維持に努めつゝあり

(八) 第一遣外艦隊司令官安宅を率ゐ漢口に向け上海發

(九) 海上部隊より揚陸せる陸戦隊は二十日常磐陸戦隊歸艦を最後とし全部所屬艦に復歸せり

(一〇) 診療班の受診者三百名に達す開北方面人心安定の一證左と認め得べし

二、上海派遣軍の情況

第二次派遣部隊は三月十七日午後全部の上陸を完了せり内地に歸還を命ぜられたる諸部隊は混成第二十四旅團、軍直屬及兵站諸部隊第十一師團の順序に十八日より遂次乗船歸還す

三、上海方面派遣艦船の内地歸還

(一) 第三艦隊に編入中なりし左記部隊及艦船は廿日内地歸還を命ぜられ夫々左記の如く内地に向け發航せり

(イ) 大井午後一時吳へ

(ロ) 第一航空戰隊午後二時佐世保へ

(ハ) 第一水雷戰隊午後二時寺島水道へ

(ニ) 第三戰隊午後二時寺島水道へ

(三) 第三艦隊司令長官より歸還部隊に對し左の通り訓示せり

征戰五十餘日水陸空に亘り勇戦力闘遺憾なく我武威を發揮し又海陸協同作戰史上曠古の教訓を致し克く當隊の任務を達成し以て聖旨に答ふるを得たるは衷心満足に堪へず今や本職の指揮下を離れ名譽の凱旋を爲すの日を迎ふるに當り深く其の勞を多とし貴官初め乗員一同の健康を祈ると共に帝國海軍の責務益々重きを加ふるに鑑み海上戦闘能力の向上に格段の力

を致さんことを切望す

(三) 内地歸還部隊の發航に際し日本毛織會社より賦納せる報國第一號飛行機は上海上空より之を見送れり

四、鎮江に於て安宅の禮砲交換

十九日上海發上江の途中鎮江に寄港せる第一遣外艦隊旗艦安宅の將旗に對し在泊支那軍艦楚觀より禮砲發射ありて禮砲を交換せり

(追記) 今後上海方面に特記すべき事項發生せざる限り「上海事件の經過」は本號を以て打切ることとせり

672
58

672

58

672
58

